14. 3-84
1200501168672
14.3
84

始

工藤武重著

帝國議會史綱

明治篇（自初期議會至第二十八議會）

有斐閣發行

14.3
84ロ

國會圖書館
44.2.22
圖書館藏書

784213

增補再版題言

帝國議會史綱編述の趣旨は、其初版の自敘中に之を具したり。始めて之を公刊したるは明治四十一年十二月にして、筆を第二十四回議會（四十一年春期議會）に擱き、爾來類似著作の編述に耽り、筆研匆忙、復た他事を顧るに遑あらす。偶〻大正十二年の關東震災に遭ひ、二十餘年累積の各種拙著、紙型完本と併せて烏有に歸し、單り議會史綱の紙型は、偶爾之を鄉里に保管し、爲に纔に災厄を免るゝことを得たり。災後舊刊の復興と新著の編述とに

志し、先つ主として議會史綱の稿を續き、概ね前書の體例を襲ひ、多少の改更を施し、第二十五回議會以降第二十八回議會（明治の最終議會）に迨ひ、以て明治年間の議會を終始し、茲に舊刊復興の初程として之を剞劂に付す。若し夫れ第二十九回以降の議會經過は、別に編述する所の大正憲政史中に之を收め、草稿既に成り、刊行近きに在り。兩書を通讀せは、明治大正兩時代に渉り、毎期議會の經過の一斑を知了することを得ん。

著者素と陋巷の窮措大、世と背き愚を守り、簞瓢屢〻空うして、仍ほ述而の樂を改めず。儒林の耆宿、政界の名

流、稍〻著者の業を認め、又其志を憫み、推奬激勵、貲を捐て〻其書の鋟版に資す。凡そ新舊の拙著、幸に之を世に問ふことを得る所以のもの、一に此等諸賢の援助に負ふ所にして、意表の福音、深く之を肝に銘して永く相諼るゝこと無けん。今其芳名を條列するの俗習を趁はさるは、爲に或は諸賢の陰德を賊はんことを虞るゝを以てなり。

昭和二年四月

著者

帝國議會史綱自叙

余迂拙、曩者明治三十二年、初て帝國議會史編述の擧を企て、爾來隨時之を刊行し、今や現に三篇・千七百頁・一百五十有餘萬言を累ね、今後仍ほ微力を竭して後篇を繼かんことを期す。爾く卷帙の漸く浩瀚に赴くに從ひ、省覽爲に或は便を缺く。乃ち別に帝國議會の小史を編し、本邦憲政の次第及び議會の經過を概敍し、題して帝國議會史綱と云ひ、茲に之を鉛槧に付す。其努めて紀事を簡にし、排印を密にし、紙幅を節約し、

卷帙を縮少したる所以のもの、偏へに繙讀省覽に便せんとするに在り。

帝國憲法發布以來已に二十年、議會の史料亦多し。此書は普く各般史料を搜り、其繁冗を芟り、其綱要を攬り、其衷を拆し、其實に就き、而して全卷一に簡約を旨とし、唯〻事件の梗槩を錄するに止め、然かも亦其包容の該博ならんことを期し、凡そ立憲以後の政法事項、其極めて微細無用の件にあらさる限りは、悉く之を網羅して一卷の下に收めたり。人若し一政法事項を知らんと欲せば、此書直ちに其概要を指示す。其詳細

の如きは宜しく他の史料若くは成書に就て之を見るべし。拙著帝國議會史、庶幾くは其需求の一端に應ずるに足らん乎。議會史の議會史綱に於けるは、譬へば猶ほ通鑑の攬要に於けるが如く、又稍〻外史の政記に於けると似たるものあり。繁簡其科を異にし、正側其觀を同じうせずと雖も、以て世態政變を包羅記述するに至りては則ち一なり。

曰く簡約、曰く該博、更に公正の二字を以て全篇を一貫す。唯〻夫れ公正を期す。故を以て立案構成の際、叙事行文の間、自我を去り、意圖を外にし、有を有とし、無

を無とし、一句の論評を挾まず、隻語の希望を述べず、已むを得ざるにあらざれば輒く註釋を付せず。加之深く措字用語を愼み、苟くも論難批評に嫌ある熟語は斷じて之を用ひず、形容比喩亦之を避け、總て謹嚴・公正・贅實・冷靜の文字を以て事實を直叙し、單へに公正を保ちて秋毫も偏陂に涉らざらんことを努めたり。凡そ余の此書の稿を構ふるや、其眼中、官なく民なく、李なく牛なく、主張の是非に依りて愛憎を加へず。行動の正邪に依りて褒貶を爲さず。黨派の清濁、操守の美醜、一も毀譽輕重の料に供するなし。惟ふに現世の

政客黨人等、亦皆な此書の曲筆なきを諒とすへく、（賴翁修史之詩『二十餘年成我書、書前酹酒一掀鬚、此中幾個英雄漢、諒否吾儂曲筆無』）天下後世、庶幾くは信を此に取りて可なり。（同翁上樂翁公書中曰『今乃得閣下寓目、以取信於天下後世、眞意外之幸也』之云々）

余此書の稿を起してより已來、截然交を江湖と絶ち、杜門喪首、日夕唯〻筆硏に親しみ、再び裘葛を易へて纔に其業を卒ふ。期する所は稍〻觀るべきの正史を後世に貽さんとするに在り。而して其事に從ふや、專念一意、戰兢儆戒、宛かも法典編纂の心を以て筆を執る。初め先づ編述の標準を立て、規摸の大體を構へ、次て其

初稿を取りて一々之を修理齊整す。包容の權衡を制し、排列の次序を正し、事件の輕重を按して再ひ取捨を試み、記述の精疎を檢して略、長短を整へ、數字計數を勘合して嚴に其差誤を防ぎ、成文演說を縮譯して唯、其意義を撮り、叙事の支吾重複を除き、行文の浮華蕪穢を戒め、因果を聯結し、脉胳を貫通し、用語を定め、文例を一にし、節目・標榜・註解・統計諸表より、以て布置・體裁の微に至るまで、總て其方式を齊整し、各會期を通じて粗一樣の繩墨に律し、以て偏傾雜駁の痕を絶ち、散慢支離の病を去らんことを勉めたり。此を以

て全稿を通讀點檢すること凡そ數十遍に及ひ、一遍毎に乃ち加除し乃ち前後し、抹殺改竄頻々相踵き、爲に案を易へ稿を更むること啻に再四のみにあらず。然かも尙ほ未だ自ら其定稿たるを許す能はず。述作の困難、今に及んで益〻之を驗す。吁〻、此么麽の著述、爲に歲月を費し精力を傾くること此の如し。迂拙の謗、竟に免るべからず。唯〻本分の甚だ重んずべきを知り、筆墨の濫りに動かすべからざるを知り、且つ杜撰鹵莽の著述を公にするの極めて惡德匪行たるを知る。乃ち終年兀々、精を傾け頭を惱まし、寧ろ迂拙の嗤を

速くも、然かも事功の完きを求めたる所以なり。惟ふ、我賴翁の烱眼達識を以てして、尙ほ迂拙男兒を以て自ら居り、（肖像自賛中之語）常に人に語りて謂らく『謂我才子未悉我者也。謂我能刻苦者眞知我矣』と。（見于江木戯著山陽先生行狀中）今余儕の迂拙、曷ぞ敢て我翁を望まん。然かも亦私かに自ら爾く云はんと欲す。

明治四十一年十一月　　工藤武重識

凡例二十五則

一　此書筆を明治元年太政官復興に起し、爾後議法制度變遷の迹を概叙し、次て憲政本記に入り、每期議會の召集前後、及び議院內外に起りたる百般の政法案件を記述し、會期の順序を追て最近第二十四回議會に及ぶ。今後版を改むる每に順次其稿を繼て之を將來に及ぼさんことを期す。

二　每期議會の編首に『召集前記』の一章を設け、召集前に起りたる重要の政治事項を概記し、爾時政界の大勢を示し、以て議會正記の素地と爲す。議員の氏名及び其異動・閣員の配置及び其更迭・政府の施設・政黨の行動・議員の黨派別・其他內治外交の諸問題、皆な此章の下に收め、而して之を遣るに努めて省約の筆を以てす。

三　政府・政黨・議員等は概ね項目を分ちて之を叙したりと雖も、彼此相交叉して復た別つべからざるものは、便宜同一項目中に之を收む。（憲政黨及び其内閣の組織及び其解體を同一項目の下に混合記述したるが如き是なり）

四　『召集前記』の次に『會期』の章あり。議會の召集・開閉・開會の準備・會期の伸縮・議長の任免・其他の諸手續及び諸事項を網羅す。

五　財計案は毎期議會の重要問題にして、兩院は常に之が審査討究に多數の日子を費し、波瀾紛擾亦從て起る。故に此書亦此問題の叙說に力を用ひ、略〻其經過の顚末を明にしたり。行政・外交・軍事等亦重要ならざるにあらずと雖も、此等問題に對する議會の權能に限りあり、其言議自ら財計問題に於けるが如く盛ならず。故に其記事亦從て疎なり。

六　豫算に關しては毎期議會必ず一章を設け、（僅少の例外あり）先づ原案の

歲入歲出額を表示し、前年度豫算と對照し、政府の計畫を說き、議會の經過を叙し、最後に其確定數を表示して原案と對照す。追加豫算は總豫算と併記合算するあり、又全然之を分別するあり。政府の計畫又は議事の體式如何に從ひ自ら其例を異にす。（追加豫算の全部又は一部を總豫算に加へて財政計畫の大本を立てたる年度に在りては、此書亦兩者を併記合算す。第一・第九・第十三議會に提出せられたる當該年度の豫算の如き是なり）特別會計豫算・豫算外國庫負擔の契約案・及び其追加案は概ね之を省略し、其内重要なるものは特に抽て之を揭ぐ。（臺灣總督府特別會計、又は特種なる補助費の如き是なり）

七　決算は先づ當該年度の決算額と豫算額とを對照表示し、次て會計檢査院の非難若くは政府の辯明を揭げ、（重要ならざるものは省略す）次て兩院の檢査及び上奏決議等の事項に及ぶ。議會は從來決算を重視せず、從て其記事亦極めて寥々たるを以て、此件は必しも會期毎に一章を設けず。而して特別會計決算の取舍は前揭特別會計豫算の例に由る。

八　法律案に關しては毎期議會概ね一章を設け、先づ兩院を通過したるもの〻件銘を錄し、各案中、事態の較〻重大なるもの、若くは議院内外の議論を惹起したるものは、特に之を抽擇して其内容及び經過を叙し、必しも其運命奈何を問はず。但し法律案中最も重要なるものは獨立の一章を設け、若くは他の關係議案と別章に併せ叙し、而して此類の法律案は法律案本章に再錄せす。（增稅案其他豫算に關聯せる財計諸法律案の如き是なり）又同一法律案にして屢次議會の問題たるものは、後副第十五條の例に由る。

九　上奏案・決議案は概ね政治上の重要問題に涉るを以て、此書努めて之を採る。但し事の單に儀式恒例に止まるもの〻如きは之を省略に付す。（開院式勅語奉答書を毎期掲載せざるの類是なり）又建議案は比年益〻其數を加ふるを以て、毎期議會概ね其件數を掲け、中に就き較〻重要なるものを抽て其

内容及び經過を叙す。

十　議員の質問權を揮ふ者近年益〻增加し、人民の請願亦頗る議院の顧る所と爲る。其質問又は請願の注目すべきものは之を錄す。緊急勅令又は財政處分に關する事後承諾要求案の始末は一々之を掲く。當選訴訟・資格異議・懲罰事犯等は亦其原因と歸着とを明にす。法制上の疑議・先例・各般の動議、凡そ憲政の弛張に關し議權の消長に亘るものは、亦之を捃摭して遺すなし。慶吊・儀式・典禮の如きは、事の重大なるものを除くの外、概ね省略に從ふ。

十一　豫算其他常例議案の外、毎期議會概ね一二重要問題の發生せざるはなし。此等問題の爲に別に特立の章を設け、努めて其事件の首尾眞相を明にす。（彈劾上奏又は軍國要務の如き是なり）

十二　毎期議會の編尾に『雜纂』の一章を設け、他の各章に屬せざる

各般の案件を包括し、其事項頗る多端多樣に渉る。前記第九・第十の兩條に擧示したる事項の如きは、概ね此章の範圍に屬すべきものにして、又夫の上奏案・決議案・法律案・豫算案等の爲に別に一章を設けさる會期に在りては、是れ亦之を此章の中に收む。

十三 凡そ此書は各事件の性質を按して節目を立て、關係事項一切を收錄し、議案の體例如何に拘泥することなし。（財政計畫の項目の下に豫算案・增稅又は募債法律案・上奏案・決議案・及び之に關聯する各種の動議を一切收拾したるが如き是なり）

十四 凡そ此書は議會召集の前後に依りて記事の門を別つと雖も、事件の種類性質又は他の事件との關係如何に依り、便宜其記事を他の適所に挾み、（貴族院議長任免の記事を會期中に收めて衆議院議長任命と駢列するが如き是なり）一事件にして召集の前後に跨るものは、是れ亦其記事を適當の部に排置し、（召集前に開始して會期中に成熟したる政府・政黨の妥協案件を會期中に一括叙述するが如き是なり）數會期に繼續する案件は、筆を恰好の

段落點に進め、（近年の東洋問題に關する記事の如きは特に此例に由る）必しも其發生の時期如何に拘泥せず。又一事件に原因して幾多の新事實を發生し、隨時議會の問題たるものは、唯、前後叙事參照の注意を與ふるに止め、既揭の一事を再叙せず。（財政計畫に關する政府議會の衝突、行政整理の公約、整理事業、公約履行の當否に關して政府議會再度の衝突の如き是なり）是れ皆な記事の重複と散慢とを防ぎ、努めて首尾を一貫して通覽に便せんことを期する所以なり。

十五 凡そ同一事件又は議案にして屢〻議會の問題たるものは、其初度に於て先づ事件の顚末又は議案の內容を揭げ、爾後唯〻前後參照の注意を與へて直ちに案件の經過運命に入る。（會計檢査院長違法處分事件、臺灣に施行する法令に關する法律案の如き是なり）其中、事の極めて輕微なるもの、若くは其運命常に相同じくして敢て重要ならざるものは、必しも一々之を錄せず。（憲政創設時代の人權に關する各法律案、近年の會計法中改正に關する各法律案の如き是なり）

十六　凡そ詔勅・公文・議案・決議・法令・條約等を引用するに際しては、唯〻其要領を縮譯し、若くは其一節を剪截し、之を章句の間に挾む。直ちに其全文を取るは最も重要緊切なるものに限り、其數極めて尠し。政府の發表する施政及ひ財政の方針の如き、亦唯〻其梗槩を摘錄するに止め、決して其全文に及はす。各議員の演說の如き特に然りと爲す。

十七　凡そ事の數字計算に亘るものは、一々嚴に之を査覈し、必ず其合數を得るの後、始めて筆を下したるを以て、私かに其記事及び統計表中に毫釐の差誤なきを保す。但し貨幣の數量圓位以下は總て之を除却す。

十八　法律案件銘の極めて冗長にして、幾んど其成文と相同じきものあり。又單に件銘を見るも其內容を知るべからざるものあり。此書は案の內容に按して私に件銘を設け、之を章句の間に用ひ、又取て以て各項の標題に充て、一瞥直ちに其內容を知らしむ。（單に『關稅定率法中改正案』と記せずして其改正を要する品目を摘示し『某種某品關稅增率案』と云ふの類是なり）

十九　貴族院及び衆議院は法制上共に同一の權能を有し、相合して帝國議會を爲す。然れども立憲以來の實情、衆議院獨り政界に勢力を爲し、貴族院は常に客位を占む。故に此書の記事、亦自ら兩院の間に精疎の別なきを得ず。

二十　近年の例、議案の可否は必ず委員會の審査に待ち、而して委員會の決は概ね各派の黨議に定まる。故に此書は本會議に於ける各議案の言論表決を記すると共に、亦委員會の審査事情を叙し、旁ら政黨の內議に及ぶ。

二十一　兩院正副議長及び全院委員長の氏名は每次必ず之を記し、

豫算委員長其他重要議案の發議者及び其特別委員長の氏名亦概ね之を記したり。他の普通議案の發議者及び賛否發言者の氏名の如きは必しも一々之を掲げず。

二十二 擡頭闕字の禮の如きは一に省略に從ひ、復た書法の古例を趁ふことなし。但、神宮 皇祖 列聖及び 今上を稱謂し奉るの際、僅かに一字を闕く。

二十三 自叙中反覆告白したるが如く、此書必ず記事の公正ならんことを期し、一言の評論に渉るを避くると共に、又努めて註釋を省き、且つ流俗の例に反して一切圏點を闕如したり。何ぞや。註釋なるもの固と是れ意思の判斷に待ち、動もすれば輙ち評論に接近し易く、而して圏點亦是れ無言の評論に類するを以て、爲に或は公正を害せんことを虞れてなり。但、事態必ず註釋を要する事項に對して

は、極めて公正の見地を以て眞相を概說す。若し夫れ措字用語は全卷を通じて最も意を効したり。其用語例は之を別項に具す。

二十四 此書既刊拙著帝國議會史を粉本として之を拆衷潤色したる點間、之れあり。故に其凡例中、取て以て此書に準用すべきもの亦之れなきにあらず。今之を一々せず。唯、讀者の參照に待つ。又此書の編章中、隨處無數の凡例を挾むと雖も、今一々之を此に轉錄することを爲さず。

二十五 余屢、知友又は某派某會の爲に議會報告書を立案制定す。今此書を編述するに當り、都て草稿を新たにし、一も踏襲する所なく、努めて彼此類似の痕を去り、必ず每會期記事の內容形體を齊整せんことを期したりと雖も、等しく同一の思慮を以て同一の任務に膺り、同一の筆管を操りて同一の事件を記す。乃ち其取舍後先の際、

時に或は相類似することなきを保せず。是れ固と暗合のみ。彼此共に剽竊にあらざることは讀者必ず之を諒とせん。

明治四十一年十一月

著者識

用語例

此書深く措字用語を慎み、筆を下すこと苟くもせず。其趣旨苦衷は既に自叙中に之を披陳したり。左に二三の事例を掲げ、以て著者微意の在る所を知らしむ。

一 論難批評的字句を用ひず。記實を專とする所以なり。

二 浮華誇張的字句を用ひず。素樸を旨とする所以なり。

三 冗長蕪穢の字句を用ひず。一に簡潔に從ふ。

四 毀譽褒貶の字句を用ひず。必ず公正を期す。

五 比喩形容を忌む。（例へば『民黨の戰鬪準備全く整ふ』と云ふが如きは比喩なり。勅語に冠するに『優渥』の二字を以てするが如きは形容なり。兩つながら採らず。）

六 稱呼を慎む。（例へば黨派の主張に按して『硬派』又は『軟派』と呼ぶが如きは聊か褒貶に渉る、故に採らず。『藩閥政府』の四字、轉た

輕侮の嫌あり、故に採らず。陸海軍大臣を呼ぶに『陸相』『海相』を以てするが如きは全然意義を沒す、故に採らず。所謂『元老』なるもの、法規之を認めず、憲政之を許さず、且つ稱呼聊か過重に彌るの嫌なきにあらずと雖も、此二字今や世俗通有の名詞と化したるを以て、此書亦姑らく之を假用す。

七 自他を明にす。（例へば『提出』と云ひ『接受』と云ひ、又『協贊』と云ひ『成立』と云ふの類、都て標題及び行文の主格に按して字を下す）

八 同義の異字を同一節目中に混用するを避く。（例へば『政府』と『內閣』、『韓國』と『朝鮮』其意義固より異る所なしと雖も、同一節目中に在りては兩者其一を專用す。『國庫剩餘金』と云ひ『前年度繰入金』と云ふの類亦同じ。）

九 意義類似の文字は努めて正確の用法に遵ふ。（例へば『詔勅』と云ひ『勅諭』と云ひ『勅命』と云ひ『勅語』と云ふ。其本旨敢て異る所なしと雖も、如今粗〻一定の用法あり。此書努めて其用法を誤らざらんことを期す。『修正』『訂正』『改正』の類亦同じ。）

十 沒理の慣用語は一切之を排除し、（『陸相』『海相』の類）慣用語にして法令中の用語と相違ふものは、可及的法令中の用語を取る。（例へば『委員附託』と書せずして『委員付託』と書し、『豫算編制』と書せずして『豫算調製』と書するの類是なり）但し法令中の用語も時としては頗る區々に亘り、且つ法規間〻抵牾する所あるを以て、一々之に遵ふの陋を學はず。（憲法は姑らく論ぜず。熟ら議院法を點檢するに、其編制極めて粗笨にして、單り措字用語に抵牾誤

謬あるのみならず、甚しきは則ち憲法の條規と相容れざるものあり。一例を擧ぐれば、議會の停會は天皇の大權に屬すること憲法第七條の明定する所なるに拘らず、議院法第三十三條に於て政府此權を有するが如き規定を設けたるは、蓋し粗漏の最も甚しきものなり。）

十一 漢字中、意義互に相假用し、偏旁の變化に依りて幾んと訓釋を更へざるものあり。（『檢』と『撿』、『沮』と『阻』、『漫』と『慢』、『記』と『紀』。此類枚擧に遑あらず）字畫相類して意義全く同じからざるものあり。（『戊』と『戊』と『戊』、『已』と『巳』と『已』、『刺』と『刺』、『飾』と『飾』との類是なり。）其意義互に相假るものは敢て之を混用するを忌まずと雖も、亦努めて現時慣行の用法に遵ふ。（辯護に『辯』を用ひ、支辨に『辨』を用ひ、屬行に『屬』を用ひ、奬勵に『勵』を用ゆるの類是なり。）又此書最も校訂を嚴密にし、努めて類書異義の文字を排列するの失體に遠ざからんことを期したるを以て、庶幾くは魯魚亥豕の大訛を免れたるに似たりと雖も、尙ほ或は刺刺己巳の小差なきを保せず。若し夫れ略字俗字にして現時普通の用を辨ずるものは、正字と併せ之を用ゆ。（『贊』の『贊』に於ける、『欵』の『款』に於ける類是なり。）

十二　本邦の國語假名遣は古來未だ一定せず、大家先生の所說亦區々に亘り、我儕後生、適從する所に惑ふ。故に此書姑らく自ら信して粗〻正則に近しと認むるものを取り、且つ可及的通し易からんことを主とし、必しも古人の詞章又は官報局所定の文法を墨守せず。（例へば『其』の下に『の』を省き、『及』の下に『び』を添ゆるの類是なり。）

右唯〻、二三の事例を示すのみ、他は皆な類推すべし。但し前記類似の文字は、自ら之を叙事中に用ゆるを避けたりと雖も、他者の言論を引用するに際しては、何等取舍嫌忌する所なし。然りと雖も幾十萬言の草稿中、時に或は前記禁條に觸るゝこと無きを保せず。其之に觸るゝものは應に他日を待て之を改訂すべし。

帝國議會史綱（明治篇）總目次

緒篇

立憲前記（維新以降議法制度の變遷）……一頁

憲政本記

第一回帝國議會……三〇

第一章　召集前記……三〇

衆議院議員○貴族院議員○政府○政黨

第二章　會期……五四

第三章　政府の言明……五九

第四章　豫算案……六四

政府の立案○衆議院委員會の經過○衆議院豫算會議の準備
及各種の動議○衆議院の議決、政府の不同意○豫算成立
第五章　法律案……八三
第六章　雜纂……八七

第二回帝國議會……九五

第一章　召集前記……九五
政府、內閣更迭○政黨及議員
第二章　會期……一〇一
第三章　豫算案附各種新企業……一〇三
政府の立案○衆議院の總豫算會議、豫算不成立○追加豫算
附豫算外支出
第四章　豫算以外解散問題……一一四
剩餘金支出の件○鐵道國有問題○監獄費國庫支辨案

第五章　解散……一二一
第六章　雜纂……一二四

第三回帝國議會……一二八

第一章　召集前記……一二八
議員○政府及政黨
第二章　會期……一二八
第三章　選擧干涉問題……一四二
第四章　解散問題再議……一四三
政府の計畫○豫算案○豫算外支出の件○鐵道問題○監獄費
國庫支辨案○解散の責任……一四七
第五章　雜纂……一六四

第四回帝國議會……一七〇

第一章　召集前記……一七〇
政府、內閣更迭○政黨及議員
第二章　會期……一七八
第三章　政府の言明（官民衝突の端緒）……一七九
第四章　豫算案（官民の大衝突）……一八四
政府の立案○衆議院の總豫算會議○官民の確執○衆議院の上奏○詔勅煥發、豫算成立
第五章　法律案……二一〇
第六章　雜纂……二一四

第五回帝國議會……二二四

第一章　召集前記……二二四
政黨及議員○政府
第二章　會期……二二八

第三章　風紀問題……二三〇
議長處分の件○官紀振肅の件
第四章　國權問題……二四〇
條約屬行の件○軍艦千島號事件
第五章　行政整理問題附豫算案……二四八
第六章　解散……二五三
第七章　雜纂……二五七

第六回帝國議會……二五九

第一章　召集前記……二五九
議員○政黨
第二章　會期……二七〇
第三章　官民再度の衝突、解散連施……二七二
前議會解散否認○閣臣彈劾の奏議

第四章　雜纂……二八三

第七回帝國議會……二九一

第一章　召集前記……二九一
對清開戰○外交及軍事○條約改正○議員○政黨及政府
第二章　會期……三一一
第三章　臨時軍事費豫算案附關係各議案……三一四
第四章　國民の意思……三一八

第八回帝國議會……三二一

第一章　召集前記……三二一
軍事及外交○政黨及議員
第二章　會期……三二六
第三章　軍國要務……三二七

政務綱要○臨時軍事費追加○韓國扶植○國民の意思
第四章　通常豫算案……三三二
政府の立案○議會の決定
第五章　決算……三三七
決算受領○衆議院の決算會議○貴族院の決算會議
第六章　雜纂……三四七

第九回帝國議會……三五六

第一章　召集前記……三五六
平和克復○遼東還付○日韓關係○政黨、議員、政府
第二章　會期……三七三
第三章　閣臣彈劾の議……三七六
還遼の責任附京城事變の責任○再度京城事變の責任
第四章　戰後經營（戰後財政計畫の一）……三八七

第五章　豫算案（戰後財政計畫の二）……三九一
政府の立案○衆議院の豫算會議○貴族院の豫算會議
第六章　歳入塡補案（戰後財政計畫の三）……四〇三
增稅及專賣○公債及償金
第七章　法律案……四〇八
第八章　雜纂……四一八

第十回帝國議會……四二五

第一章　召集前記……四二五
政府、內閣更迭○政黨及議員
第二章　會期……四三四
第三章　豫算案……四三五
政府の立案○衆議院の豫算會議○貴族院の豫算會議附兩院協議會

第四章　外交問題……四四七
第五章　雜纂……四五〇

第十一回帝國議會……四五九

第一章　召集前記……四五九
政府、內閣變造○政黨○議員
第二章　召集及解散……四六九
第三章　財政計畫摘要……四七一

第十二回帝國議會……四七四

第一章　召集前記……四七四
議員○政府、內閣更迭○政黨○清國事情
第二章　會期……四九一
第三章　東洋問題……四九三

第四章　增稅案、解散……四九五
政府の計畫○衆議院の決定○解散
第五章　法律案……五〇二
第六章　雜纂……五〇八

第十三回帝國議會……五一九

第一章　召集前記……五一九
政府、政黨內閣の運命附政變始末○政黨○議員
第二章　會期……五四八
第三章　豫算案（財政計畫の一）……五五一
政府の立案○衆議院の豫算會議○貴族院の豫算會議
第四章　歲入塡補案（財政計畫の二）……五六五
增稅及官業益金收入○償金及公債○地租增徵案附地價修正案

第五章　決算……五七八
第六章　法律案……五八二
第七章　雜纂……五九六

第十四回帝國議會……六〇五

第一章　召集前記……六〇五
政府、政黨、議員○外交
第二章　會期……六〇五
第三章　豫算案……六一四
政府の立案○議會の決定
第四章　閣臣彈劾案……六一五
第五章　法律案……六二五
第六章　雜纂……六二八
……六四〇

第十五回帝國議會……六五一

第一章　召集前記……六五一
政府、內閣更迭○政黨及議員○東洋時局
第二章　會期……六七三
第三章　豫算案（財政計畫の一）……六七五
政府の立案○議會の決定
第四章　增稅案（財政計畫の二）……六八二
政府の計畫○衆議院の增稅會議○貴族院の增稅會議附元老の調停○詔勅煥發、增稅案通過
第五章　法律案……六九四
第六章　雜纂……六九七

第十六回帝國議會……七〇六

第一章　召集前記……七〇六
政府、內閣更迭○政黨及議員○東洋時局
第二章　會期……七二一
第三章　豫算案附財政諸計畫……七二二
政府の立案○衆議院の總豫算會議附政府政友會の妥協○貴族院の總豫算會議附兩院協議會○總豫算關係事項○別種豫算
第四章　法律案……七四二
第五章　雜纂……七五一

第十七回帝國議會……七五七

第一章　召集前記……七五七
議員○政務○政黨
第二章　會期……七七三

第三章　豫算案附海軍擴張と增租問題……七七五
行政整理、財政計畫○豫算案附增租繼續案○官民の對抗
○衆議院の增租案會議
第四章　解散……七九三

第十八回帝國議會……七九五

第一章　召集前記……七九五
議員○政務○政黨○東洋時局
第二章　會期……八一三
第三章　海軍擴張と其財源附增租案及募債案……八一五
解散問題再議○政府政友會の妥協○海軍擴張新財源、議會の決定○閣臣彈劾の議
第四章　豫算案……八二九
第五章　決算……八三三

第六章　雜纂……八三六

第十九回帝國議會……八四三

第一章　召集前記……八四三
東洋時局○行政整理○政府○政黨及議員
第二章　召集及解散……八六二
召集○解散
第三章　雜纂……八六七

第二十回帝國議會……八七〇

第一章　召集前記……八七〇
對露開戰○外交及軍事○議員○政黨及政府
第二章　會期……八八九
第三章　臨時軍事費豫算案附關係各議案……八九一

政府の立案○議會の決定……九〇一
第四章　雜纂……九〇五

第二十一回帝國議會……九〇五

第一章　召集前記……九〇五
軍事及外交○政黨及議員
第二章　會期……九一二
第三章　臨時軍事費豫算案附關係各議案……九一四
政府の立案○議會の決定
第四章　通常豫算案……九二四
政府の立案○議會の決定
第五章　決算……九二九
議會の檢査○上川兵營建築費不當支出問題
第六章　法律案……九三七

第七章　雜纂……九四五

第二十二回帝國議會……九五七

第一章　召集前記……九五七
軍事及國情○平和克復○清韓處置及日英協約○和約非議附
官民の大衝突○內閣更迭○政黨及議員
第二章　會期……九八八
第三章　政府の言明……九九〇
第四章　各種豫算案附關係各議案……九九四
臨時軍事費豫算案附關係事項○總豫算案○爾餘各種豫算案
○豫算關係重要法律案
第五章　法律案……一〇一六
第六章　雜纂……一〇三〇

第二十三回帝國議會……一〇四三

第一章　召集前記……一〇四三
内治及外交○政黨及議員
第二章　會期……一〇五四
第三章　豫算案……一〇五五
政府の立案○議會の決定
第四章　郡制廢止案附關係事項……一〇七六
黨派形勢の變調○議員瀆職問題
第五章　法律案……一〇八五
第六章　雜纂……一〇九五

第二十四回帝國議會……一一〇五

第一章　召集前記……一一〇五

政府○外交○政黨及議員……一一一七
第二章　會期……一一一九
第三章　財政計畫變更附問責案（財政計畫の一）
財政計畫變更、政府の説明○閣臣詰責の議
第四章　豫算案（財政計畫の二）……一一二四
政府の立案○議會の決定、豫算成立
第五章　增稅案附稅法整理案（財政計畫の三）……一一三五
增稅案○稅法整理各案○三稅廢止案
第六章　法律案……一一四四
第七章　雜纂……一一五三

第二十五回帝國議會……一一六一

第一章　召集前記……一一六一
内閣更迭、内外政務○議員及政黨

第二章　會期……一一八四
第三章　豫算案附公債整理政府の立案○議會の決定……一一八六
第四章　法律案……一一九八
第五章　決算……一二〇九
第六章　雜纂……一二一四

第二十六回帝國議會……一二二四

第一章　召集前記……一二二四
政黨及議員○內外政務
第二章　會期……一二三四
第三章　豫算案附稅制整理諸案政府の立案○議會の決定……一二三六
第四章　法律案……一二四八

第五章　雜纂……一二五七

第二十七回帝國議會……一二六六

第一章　召集前記……一二六六
韓國併合○條約改正附對外事案○政黨及議員○大逆、南北朝問題
第二章　會期……一二六六
第三章　豫算案……一二七八
政府の立案○議會の決定……一二七九
第四章　法律案……一二九〇
第五章　雜纂……一三〇二

第二十八回帝國議會……一三一一

第一章　召集前記……一三一一

內閣更迭、內外政務○政黨及議員……一三二四
第二章　會期……一三二六
第三章　豫算案附制度整理
政府の立案○議會の決定○制度整理問題……一三三八
第四章　法律案……一三四四
第五章　雜纂……一三五〇
明治末記(明治憲政の推移)……一三五〇

目次

緒篇　立憲前記

(維新以降議法制度の變遷)……一—二九頁

太政官、下議事所、徵士、貢士、五章の聖誓○三權區分、議政官
上下二局○貢士對策所、待詔局、公議所○集議院○廢藩置縣、正
院、左院、右院、○廷臣の軋轢、民選議院設立の建白、政黨の萠芽○
地方官會議○立憲政體創立の詔書○元老院創設○國憲起草の勅命
○府縣會、町村民會○國論勃興、政府の抑壓、國會期成運動○國會
開設の勅諭○太政官法制部、參事院○憲法調査○政黨叢生、政論
の題目○政府の抑壓、政界萎靡、國情不穩○內閣制創設○官民反
目の極度○樞密院創設、憲法欽定○憲法發布、勅語○憲法及關係
法令、詔勅○超然主義の宣言○元老院の末路

憲政本記

第一回帝國議會……三〇—九四

第一章　召集前記……三〇

〔衆議院議員〕總選擧（第一回）○議員名錄（附議員異動）◉〔貴族院議員〕總員、各級議員○議員名錄○議員異動◉〔政府〕黑田內閣、三條內閣、山縣內閣○閣員の配置及異動○官制改革、大臣副署制の改正、機密保持○政府の政黨觀◉〔政黨〕總選擧前の政黨事情○進步團體聯合の議、立憲自由黨組織○改進黨○大成會及國民自由黨組織○議員黨派別○貴族院の各團體

第二章　會期……五四

召集○貴族院正副議長、假議長○衆議院正副議長○兩院成立○開院式、勅語○兩院奉答○兩院規則、全院委員長、常任委員○會期延長○會期滿了○閉院式

第三章　政府の言明……五九

施政の方針（總理大臣の演說）○財政報告（大藏大臣の演說）○行政各部門の質問及答辯（教育の方針。殖產興業の方針。國防の方針。外交の方針）○其他の質問

第四章　豫算案……六四

〔政府の立案〕二十四年度總豫算○二十四年度追加豫算○歲入出總額○別種豫算◉〔衆議院委員會の經過〕審查方針○審查未了の報告、再託○審查結了、政府の意見、查定案、歲出削減額◉〔衆議院豫算會議の準備及各種の動議〕會議順序協定の動議○政府不同意の豫告○全院委員會の議決○查定案廢棄の動議○豫算案再審の動議○憲法保障歲出に關する動議、政府の見解◉〔衆議院の議決、政府の不同意〕豫算會議開始○政府の言明（總理・大藏兩大臣の演說）○豫算全部議了○憲法保障歲出問題の再燃○同意要求、政府の拒絕○憲法保障歲出問題疑議◉〔豫算成立〕衆議院の再審○再審の結果、歲出削減額○衆議院の議了○貴族院の議了○確定豫算……

第五章　法律案……八三
兩院通過法律案件銘○商法施行延期○人權關係各法律案（保安條例廢止案外數件）
○民力休養各法律案（地租輕減案。地價修正案）
第六章　雜纂……八七
各種上奏案○各種建議案○議員資格の異議（衆議院）議院の審査權限
○當選訴訟（貴族院）自選投票の効力○會期前議員逮捕問題○討論終
結後政府委員の發言權○政府委員交換の要求○議員陸奥宗光懲罰
事犯○議事堂燒失

第二回帝國議會……九五―一二七

第一章　召集前記……九五
〔政府、內閣更迭〕山縣引退、松方內閣組織○大津事變、閣員の配
置○官制改正○地方官訓諭◉〔政黨及議員〕自由・改進兩黨の聯合、
板垣・大隈の會見○大成會○自由倶樂部組織○協同倶樂部組織○

議員黨派別○貴族院議員異動
第二章　會期……一〇一
召集、成立○貴族院正副議長○開院式、勅語○全院委員長、常任
委員、減員（衆議院）○解散
第三章　豫算案附各種新企案……一〇三
〔政府の立案〕政府の新企業、其種目（總理大臣の演說）○新企業の財源○二
十五年度總豫算○歲出增加の主因○軍艦製造費、製鋼所設立費○
治水費◉〔衆議院の總豫算會議〕豫算不成立〕審査方針、査定案○
會議進捗、政府の不同意○軍艦製造費及製鋼所設立費の否決、議
場の大紛擾○治水費削減○總豫算議了、歲出削減額○衆議院解散、
豫算不成立◉〔追加豫算附豫算外支出〕閣龍博覽會參同費、兩院議
了○地方土木費補助、未決、豫算外支出決行
第四章　豫算以外解散問題……一一四
〔剩餘金支出の件〕濃尾震災救濟費支出○衆議院委員會の審査、未

了◉〔鐵道國有問題〕私設鐵道買收案（其理由。衆議院委員會の否決。衆議院の否決）○鐵道公債募集案（其理由。衆議院委員會の否決）◉〔監獄費國庫支辨案〕衆議院の否決 ……一二一
第五章　解散……一二一
衆議院解散○解散の奏議
第六章　雜纂……一二四
兩院通過法律案件銘○各種法律案、上奏案、建議案○勤儉尚武の建議案○議員發言權の傷害（小澤武雄諭旨免官の件）○條約改正建議案○新聞紙取締緊急勅令

第三回帝國議會……一二八——一六九

第一章　召集前記……一二八
〔議員〕衆議院議員總選擧（第三回）選擧干涉○改選議員名錄附議員異動○貴族院議員異動◉〔政府及政黨〕選擧干涉非難、內務大臣更迭○閣員異動○政府反對黨、巴倶樂部組織○政府黨、中央交涉會組

織○議員黨派別
第二章　會期……一四二
召集、會期日數○衆議院正副議長○成立、開院式、全院委員長、常任委員○停會○閉院式
第三章　選擧干涉問題……一四三
選擧干涉と新議院○貴族院の建議○衆議院の上奏案、否決○衆議院の決議○停會
第四章　解散問題再議……一四七
〔政府の計畫〕解散問題提出、政府の言明（總理大臣の演說）◉〔豫算案（軍艦製造費・製鋼所設立費・治水費・其他）〕二十五年度追加豫算○衆議院委員會の査定○衆議院の議了、解散費目の斷定○貴族院の議了○貴族院の豫算欵項挿入權、兩院確執○貴族院の上奏、勅裁○兩院協議會、追加豫算確定◉〔豫算外支出の件〕震災救濟費及土木補助費支出○震災救濟費不承諾。土木補助費不承諾）當支出問答○內務大臣辭職○衆議院委員會の決定

○政府の辯解○兩院の承諾◉〔鐵道問題〕鐵道諸法案提出○衆議院委員會の成案○衆議院の決定、議場の紛擾○貴族院の決定○鐵道敷設法成立◉〔監獄費國庫支辨案〕否決◉〔解散の責任〕質問

第五章　雜纂……一六四

兩院通過法律案件銘○法典施行延期○各種法律案○新聞紙取締緊急勅令○議員資格の異議（貴族院）陞爵者の議員資格○當選訴訟（貴族院）陞爵議員の被選權○議員瀆職問題

第四回帝國議會……一七〇—二二三

第一章　召集前記……一七〇

〔政府、內閣更迭〕松方內閣の厄運、內務大臣更迭、閣員異動○選擧干涉善後處分、內閣不統一、閣員總辭職○伊藤內閣組織○新內閣の選擧干涉善後處分○內閣總理大臣臨時代理◉〔政黨及議員〕國民協會組織○選擧干涉自白○同盟倶樂部組織○改進黨及自由黨○

議員黨派別○貴族院議員異動

第二章　會期……一七八

召集、成立、開院式○全院委員長、常任委員○停會○會期延長○閉院式

第三章　政府の言明（官民衝突の端緒）……一七九

施政方針書發表○財政計畫（大藏大臣の演說）○國務大臣出席の要求○日程變更の障碍○官民衝突の責任

第四章　豫算案（官民の大衝突）……一八四

〔政府の立案〕二十六年度總豫算○軍艦製造費○二十五・六兩年度追加豫算◉〔衆議院の總豫算會議〕審査方針○査定案○委員長の報告、政府の言明○豫算會議開始、軍艦製造費削除○豫算全部議了、歲出削減額◉〔官民の確執〕同意要求、政府の拒絕（臨時總理大臣の演說）○議員・閣員の對抗○再考無用の議（河野廣中の演說）○再び同意要求、政府の拒絕○三たび同意要求、處決督促、休會、政府の拒絕◉〔衆議院

の上奏〕上奏案提出○停會○上奏案付議○政府の辯明（總理大臣の演說）○上奏案可決、休會○奏疏捧呈◉〔詔勅煥發、豫算成立〕詔勅○政府・議會の交渉、政府の公約、局面一變○政府の總豫算案訂正、製艦費補足金挿入○衆議院の再審、査定案○兩院の總豫算議了、豫算成立○確定豫算○追加豫算議了……二一〇

第五章　法律案……二一〇

兩院通過法律案件銘○商法中會社・手形・破産三編修正○地價修正案、三稅增徵案附地租輕減案○各種法律案

第六章　雜纂……二一四

選擧干涉善後處分問題（各種質問、政府の答辯。衆議院の上奏）○條約改正上奏○狩獵規則違憲問題（世論。質問。衆議院の決議。狩獵法案）○官吏俸給減額の建議○俸給稅問題○各種上奏案及建議案○豫備金及剩餘金支出○軍艦千島號事件質問○內閣不信任の動議○誹謗告訴……

第五回帝國議會……二二四—二五八

第一章　召集前記……二二四

〔政黨及議員〕國權論勃興、大日本協會組織○國民協會の態度○聯合民黨の變情、同志倶樂部組織、各派の意向○議員黨派別、民黨六派○貴族院議員異動◉〔政府〕閣員異動○行政整理

第二章　會期……二二八

召集、成立、開院式○貴族院副議長○衆議院正副議長○全院委員長、常任委員○停會連施、解散

第三章　風紀問題……二三〇

〔議長處分の件〕事件の起端○議長不信任の決議○星亨の揚言、臨時休會○上奏○勅問、奉答○星亨懲罰事犯（其一）出席停止○星亨懲罰事犯（其二）除名◉〔官紀振肅の件〕事件の起端、衆議院の上奏○當該大臣の待罪、衆議院の處決督促○事件の結尾、農商務大臣

更迭
第四章　國權問題……二四〇
〔條約厲行の件〕條約厲行建議案○世論の趨向、政府の苦慮○建議案會議、政府の辯明、停會、解散○條約厲行及改正の質問◉〔軍艦千島號事件〕損害賠償訴訟○質問、答辯○再質問、答辯督促、上奏案提起○再答辯
第五章　行政整理問題附豫算案……二四八
行政整理の報告（總理大臣の演說）○財政計畫の說明（大藏大臣の演說）○二十七年度總豫算○新事業費○豫算案と衆議院○審査進行、豫算不成立○二十六年度追加豫算
第六章　解散……二五三
衆議院解散○貴族院議員の忠告○總理大臣の復書、解散の理由○貴族院議員の反駁
第七章　雜纂……二五七

兩院通過法律案件銘○各種法律案○成果
第六回帝國議會……二五九—二九〇
第一章　召集前記……二五九
〔議員〕衆議院議員總選擧（第三回）○改選議員名錄○貴族院議員異動◉〔政黨〕政府の抑壓○立憲革進黨組織、聯合民黨の二大政綱○自由黨の態度○議員黨派別
第二章　會期……二七〇
召集、會期日數○衆議院正副議長○開院式○全院委員長、常任委員○解散
第三章　官民再度の衝突、解散連施……二七二
〔前議會解散否認〕解散の理由、政府の方針（總理大臣の演說）○貴族院の質問、政府の辯明○衆議院の決議◉〔閣臣彈劾の奏議〕內外失政に關する上奏案○行政整理に關する上奏案○上奏案會議、修正可決○

奏疏捧呈○〔再度の解散〕奏議不省、解散○解散の理由、閣臣の奏議

第四章　雜纂……二八三

兩院通過法律案件銘○二十七年度追加豫算○決算受領○豫備金及剩餘金等の支出、衆議院の問責決議○條約改正の質問・決議・及建議案○貢租引當米過剩金下渡請願、井上馨の舊惡追責決議

第七回帝國議會……二九一—三二〇

第一章　召集前記……二九一

〔對清開戰〕韓國の禍亂、日清交渉、開戰○開戰の理由◉〔外交及軍事〕日韓關係、列國の擧措、局外中立○戰鬪情況◉〔條約改正〕政府の秘密主義、抑壓手段○日英改締條約、議定書、通知書○列國改締條約◉〔議員〕衆議院議員總選擧（第四回）議員名錄、議員異動○貴族院議員異動◉〔政黨及政府〕解散當時の政界○東洋の風雲と政

局の變化、擧國一致○議員黨派別○閣員異動

第二章　會期……三一一

召集、會期日數○貴族院副議長○衆議院正副議長○部屬排置、委員選擧○開院式、勅語、奉答○會期實數、閉院式、勅語○議長及議員受賞

第三章　臨時軍事費豫算案附關係各議案……三一四

〔政府の計畫〕各案提出、政府の報告・說明・希望○臨時軍事費豫算、其財源○財政上の必要處分○公債募集法案、事後承諾要求案○臨時軍事費特別會計法案◉〔議會の決定〕財政各案協贊及承諾○別種緊急勅令

第四章　國民の意思……三一八

聖旨奉體・民論貫徹の建議○上奏及決議

第八回帝國議會……三二一—三五五

第一章　召集前記……三二一
〔軍事及外交〕戰程進捗、列國の擧措○清國乞和、使者追放○國內の輿論○韓國革弊助言◉〔政黨及議員〕政局無事○貴族院議員異動
第二章　會期……三二六
召集、成立○開院式、勅語、奉答○全院委員長、常任委員○閉院式
第三章　軍國要務……三二七
〔政務綱要〕政府の言明（總理大臣の演說）○清使追放の報告◉〔臨時軍事費追加〕追加豫算案○財源法律案○兩院協賛◉〔韓國扶植〕內政改革資金貸付○政府の對韓方針◉〔國民の意思〕軍資辨給の決議○上奏及決議
第四章　通常豫算案……三三二
〔政府の立案〕二十八年度總豫算○二十七年度追加豫算○二十八年度追加豫算◉〔議會の決定〕衆議院の總豫算査定案、修正額○各派

の意向、豫算案再審の議○兩院の總豫算議了○確定豫算○追加豫算議了
第五章　決算……三三七
〔決算受領〕二十四年度決算○二十五年度決算○疑議條項◉〔衆議院の決算會議〕前年受領の決算檢査權○委員會の決定○日程除却の議○議事延期の議○兩院交渉關係○二十五年度決算檢了、決議◉〔貴族院の決算會議〕前年受領の決算檢査權、二十四度決算檢了、決議、上奏○二十五年度決算檢了、決議
第六章　雜纂……三四七
兩院通過法律案件銘○國立銀行處分法案○狩獵法制定○各種法律案○改正條約の質問（兩院）○各種建議案、政府の言明○豫備金支出○官文書捏造事件
第九回帝國議會……三五六—四二四

第一章　召集前記……三五六
〔平和克復〕第二期作戰計畫、休戰、和約調印○媾和條約○和約批准、平和の詔勅○批准交換◉〔遼東還付〕三國の交渉、帝國の應諾○還遼の詔勅○還遼條約○戰後の國情◉〔日韓關係〕京城の暗鬪○政權爭奪、王妃遭害○國王出奔、大臣虐殺○對韓政策變更、日露協商◉〔政黨、議員、政府〕責任論勃興、非政府黨の活動、政府の抑壓○國民協會の態度○自由黨と政府の提携○議員黨派別○貴族院議員異動○閣員異動
第二章　會期……三七三
召集、成立○開院式、勅語、奉答○全院委員長、常任委員○停會○會期延長○閉院式、勅語
第三章　閣臣彈劾の議……三七六
〔還遼の責任附京城事變の責任〕上奏案提出○發案の趣旨（尾崎行雄の演說）○上奏案否決◉〔再度京城事變の責任〕質問○決議案○停會○決議

案撤回の議○決議案否決
第四章　戰後經營（戰後財政計畫の一）……三八七
施政の方針（總理大臣の演說）○媾和顚末報告○對韓政策變轉○財政の方針（大藏大臣の演說）○財政十年計畫
第五章　豫算案（戰後財政計畫の二）……三九一
〔政府の立案〕二十九年度總豫算○歲出增加の理由○軍備擴張○歲入種別○歲入不足額、其塡補豫算○臺灣諸經費、威海衞占領費○二十八年度追加豫算○二十九年度追加豫算◉〔衆議院の豫算會議〕總豫算査定案○民黨の意向、各種の動議○總豫算議了、歲出削減額○追加豫算其他議了◉〔貴族院の豫算會議〕委員會○本會議、豫算案議了○確定豫算
第六章　歲入塡補案（戰後財政計畫の三）……四〇三
計畫大綱◉〔增稅及專賣〕各種增稅法案、可決○葉煙草專賣法案、可決○國庫實收額○增稅案概要◉〔公債及償金〕公債募集○償金繰

入

第七章　法律案……四〇八

兩院通過法律案件銘○民法中總則・物權・債權三編修正○臺灣特別立法の件○償金及軍事費特別會計法○貴族院被選議員歲費廢止案○人權關係各法律案○銀行關係各法律案、國立銀行繼續○鐵道關係各法律案、憲法問題○各種法律案

第八章　雜纂……四一八

二十六年度決算（貴族院の檢了。衆議院の檢了。）○豫備金及剩餘金支出、院議一變○渡韓制限緊急勅令○臺灣不割讓の宣言○軍艦千島事件訴權放棄の質問○各種質問及建議

第十回帝國議會……四二五—四五八

第一章　召集前記……四二五

〔政府、內閣更迭〕拓殖務省設置、閣員異動、板垣退助入閣○伊藤

內閣動搖、松隈推薦の議、閣員總辭職○松隈聯合內閣組織、閣員異動○新內閣の政綱、政務調査○二十六世紀事件◉〔政黨及議員〕進步黨組織○新內閣と進步黨の提携○自由黨の動靜○國民協會の嚮背○議員黨派別○貴族院議員異動

第二章　會期……四三四

召集○貴族院議長○衆議院議長○成立、開院式○全院委員長、常任委員○大葬、休會○閉院式

第三章　豫算案……四三五

〔政府の立案〕財政計畫（大藏大臣の演說）○三十年度總豫算○第二期軍備擴張費○歲入種別、公債募集、償金繰入○二十九年度追加豫算○三十年度追加豫算○臺灣總督府特別會計設定、其豫算◉〔衆議院の豫算會議〕各派の意向○政府の總豫算案訂正○總豫算案查定案○政府の公約、總豫算議了、修正額○追加豫算其他議了◉〔貴族院の豫算會議附兩院協議會〕軍備擴張費削減の議○軍備縮少上奏案、

否決○貴族院の豫算議了○兩院協議會、成案通過○確定豫算
第四章　外交問題……四四七
自由黨對大隈○外交方針（外務大臣の演說）○日露協商發表○失言問題○日英・日獨條約質問
第五章　雜纂……四五〇
兩院通過法律案件銘○新聞紙發行停止制度全廢○金貨本位制度確立○關稅定率法設定○法典施行延期○二十七年度決算○豫備金及剩餘金等の支出、責任支出○緊急勅令廢止の勅令○製艦費補足金辭避の上奏

第十一回帝國議會……四五九——四七三

第一章　召集前記……四五九
〔政府、內閣變造〕民心離畔○薩隈兩派の衝突、隈派の辭職、內閣變造○聯立內閣破裂前の暗鬪◉〔政黨〕進步黨と政府の絕緣○政府

の自由黨黨誘拐、自由黨の政府反對○國民協會の政府反對○聯合民黨の勢力○政府黨、公同會組織○議員黨派別◉〔議員〕貴族院被選議員改選、總員、議員名錄○貴族院議員異動
第二章　召集及解散……四六九
召集、成立、開院式○內閣不信任決議案、解散○貴族院記事
第三章　財政計畫摘要……四七一
三十一年度總豫算○三十一年度追加豫算○歲入不足額、增稅及負債計畫○豫算不成立

第十二回帝國議會……四七四——五一八

第一章　召集前記……四七四
〔議員〕衆議院議員總選擧（第五回）取締勅令○改選議員名錄○貴族院議員異動◉〔政府、內閣更迭〕松方內閣總辭職、伊藤內閣組織○閣員異動◉〔政黨〕自由黨の去就○進步黨、對外問題○爾餘各派○議

員黨派別◉〔清國事情〕戰後の清國○露清密約○租借頻々、勢力範圍限定○帝國の擧措、福建不割讓の約
第二章　會期……四九一
召集、會期日數○衆議院正副議長○成立、開院式、勅語○全院委員長、常任委員○會期延長○停會○解散
第三章　東洋問題……四九三
質問○上奏案、否決
第四章　增稅案、解散……四九五
〔政府の計畫〕三十二年度推定豫算、歲入不足○增稅及官業益金增收の計畫◉〔衆議院の決定〕財政各案接受○增租案、委員會の否決○增租案付議、會期延長、停會○地價修正の希望○增租案否決◉〔解散〕衆議院解散
第五章　法律案……五〇二
兩院通過法律案件銘○法典殘部修正案（法例。民法、民法施行法。

商法、商法施行法。戶籍法、國籍法）○選擧法改正案○特別市制廢止○保安條例廢止
第六章　雜纂……五〇八
三十一年度追加豫算（不成立豫算補充。神宮造營費。再餘豫算）○豫備金及剩餘金等の支出○決算受領○經濟財政上の質問○檢査院長違法處分事件（質問、上奏案）○臺灣法官違憲罷免事件（質問。上奏案）○當選訴訟四件（貴族院）（資產減耗者の投票。自選投票。互選名簿確定前の委託投票。前後二通の委託投票）

第十三回帝國議會……五一九—六〇四

第一章　召集前記……五一九
〔政府、政黨內閣の運命附政變始末〕憲政黨組織○政黨內閣組織○新內閣の性質、政務官及事務官○行政整理○憲政黨の內訌、均勢論○共和演說事件○文部大臣更迭、閣議不統一○憲政黨解散、憲

政黨組織○憲政黨併立、憲政本黨組織○閣員總辭職○山縣內閣組織○新內閣と憲政黨の交渉、提携成就○提携宣言◉〔政黨〕憲政黨○國民協會○憲政本黨○議員黨派別◉〔議員〕衆議院議員總選擧

(第六回) 取締勅令○改選議員名錄附議員異動○貴族院議員異動

第二章　會期……五四八

召集、會期日數○衆議院正副議長○兩院成立○開院式、遷延、勅語○全院委員長、常任委員○會期延長○閉院式

第三章　豫算案(財政計畫の一)……五五一

〔政府の立案〕施政の方針(總理大臣の演說)○財政計畫(大藏大臣の演說)○三十二年度總豫算、前閣立案踏襲○歲出增加の理由○歲入種別○歲入不足額、其塡補豫算○三十一年度追加豫算○三十二年度追加豫算、第三期陸軍擴張費其他○臺灣總督府豫算◉〔衆議院の豫算會議〕査定案、各種の動議、總豫算議了、修正額○歲入塡補豫算訂正、議了○追加豫算其他議了◉〔貴族院の豫算會議〕各種豫算議了○確定豫算

第四章　歲入塡補案(財政計畫の二)……五六五

歲入不足の趨勢◉〔增稅及官業益金收入〕第一次增稅案○第二次增稅案、增稅計畫確定○國庫實收額○增稅率概要◉〔償金及公債〕償金繰入○公債募集、關係法律案◉〔地租增徵案附地價修正案〕地租增率、地價修正、國庫收入の增減○增租賛否の聲、政府の抑壓誘拐策○憲政黨の主張○衆議院の決定、增率變更、年限設定○貴族院の決定○宅地組換法、附加稅制限法

第五章　決算……五七八

廿七八年臨時軍事費決算(歲入出額。檀査院の非難。貴族院の檀了、衆議院の未決)○二十八年度決算○二十九年度決算○決算檀査に關する衆議院の決議、同院未決の決算

第六章　法律案……五八二

兩院通過法律案件銘○商法修正○國籍法○臺灣特別立法制有効期延長○選擧法改正案、兩院の衝突○兩院議員歲費增額○府縣制・郡制全部改正○臺灣經營各法律○艦艇補充・教育・災害準備三基金設

定○監獄費國庫支辨案○各種法律案
第七章　雜纂……五九六
鐵道國有建議○償金一部御料編入○敎育關係諸案○各種建議案○豫備金及剩餘金等の支出○選擧取締緊急勅令○京仁鐵道敷設權收得○檢査院長違法處分事件○當選訴訟（貴族院）無資格者記入互選名簿○衆議院の紛擾、懲罰事犯二件

第十四回帝國議會……六〇五—六五〇

第一章　召集前記……六〇五
〔政府、政黨、議員〕文官任用令發布、政府と憲政黨の衝突○三税復舊論、政黨勢力の消長○府縣會議員總選擧、選擧干涉○帝國黨組織○憲政黨○憲政本黨○議員黨派別○貴族院議員異動◉〔外交〕改締條約實施、勅語○支那人雜居問題○淸國の形勢、英露協商、門戸開放主義

第二章　會期……六一四
召集、成立、開院式○全院委員長、常任委員○會期延長○閉院式
第三章　豫算案……六一五
〔政府の立案〕財政計畫（大藏大臣の演說）○三十三年度總豫算○歲出增減、歲入種別、償金繰入、公債募集、英貨公債○三十二年度追加豫算○三十三年度追加豫算○臺灣總督府豫算○別種豫算◉〔議會の決定〕衆議院の總豫算査定案、議了、修正額○豫算全部反對の議、紛議○貴族院の總豫算議了○確定豫算○各種豫算議了
第四章　閣臣彈劾案……六二五
官紀紊亂事件○上奏案、否決○官紀紊亂事件調査の議
第五章　法律案……六二八
兩院通過法律案件銘○選擧法全部改正（衆議院の決定。貴族院の決定。兩院協議會、通過確定）○三税復舊案○歲費復舊案○議員瀆職法案○宗敎法案○鐵道國有法案○監獄費國庫支辨○各種法律案

第六章　雜纂……六四〇
三十年度決算○衆議院未決々算檢了○豫備金及剩餘金等の支出○府縣會議員選擧取締勅令○府縣會議員選擧干涉質問○外交質問、清國事情○鐵道經費增額○京釜鐵道特別保護の建議○臺灣法官違憲罷免事件建議○教育關係諸案○足尾鑛毒事件○各種建議案○當選訴訟(貴族院)同時二通の委託投票、外一事

第十五回帝國議會……六五一—七〇五

第一章　召集前記……六五一
〔政府、內閣更迭〕山縣の辭意、留職○官制改正、官房長、總務長官○山縣內閣總辭職○內閣後任談、渡邊國武の擧措○伊藤內閣組織○閣員異動○星亨辭職顚末、東京市の疑獄◉〔政黨及議員〕憲政黨と山縣內閣、提携報酬問題、絕緣○憲政黨と伊藤博文の結合、政友會組織○憲政黨解散○政友會發會式○政友會の地位○憲政本

黨、其內訌、三四倶樂部組織○帝國黨○貴族院各派の蹶起○國民同盟會、清韓保全扶掖の議○議員黨派別○貴族院議員異動◉〔東洋時局〕北清の暴動○清廷事情、外交局面○露國の滿洲經營・英獨協商、帝國の擧措
第二章　會期……六七三
召集、成立、開院式、勅語○全院委員長、常任委員○部屬黨派別制度、隔日開議○停會連施○閉院式
第三章　豫算案(財政計畫の一)……六七五
〔政府の立案〕三十四年度總豫算○歲入種別、重要歲出○北清事件費、增稅豫算○三十三・四兩年度追加豫算○臺灣總督府豫算◉〔議會の決定〕衆議院の總豫算査定案、議了、修正額○貴族院の總豫算議了○兩院協議會、確定豫算○各種豫算議了
第四章　增稅案(財政計畫の二)……六八二
〔政府の計畫〕增稅案提出、稅率概要○增稅收入額、其支途◉〔衆

議院の增稅會議〕各派の意向○增稅案可決◉〔貴族院の增稅會議 附元老の調停〕六派一致、委員會否決○本會議、停會○政府の交涉拒絕、元老會議○元老の交涉拒絕、調停成案、再停會○調停對案、交涉破裂○政府の苦悶、貴族院改造の議◉〔詔勅煥發、增稅案通過〕勅語○貴族院の增稅案可決○閣臣の進退伺○首相の辯解、貴族院の云爲○衆議院の決議案、否決

第五章　法律案……六九四

兩院通過法律案件銘○瀆職法制定○北海道自治○各種法律案

第六章　雜纂……六九七

三十一年度決算○二十四年度決算、衆議院の檢了○北淸事件費支出緊急勅令○豫備金其他の支出○外交質問、政府の報告・答辯・方針○司法官增俸の件○地方秕政の質問、發言中止の件○東京市政紊亂事件、議員監禁問題○臺灣法官違憲罷免の件○各種建議案○英皇哀悼

第十六回帝國議會……七〇六—七五六

第一章　召集前記……七〇六

〔政府、內閣更迭〕財計緊肅論、閣議不統一○伊藤內閣總辭職、渡邊國武の行動○桂內閣組織、閣員更迭○桂內閣の擧措、地方官訓示◉〔政黨及議員〕星亨の慘死、政友會動搖○政友會の宣言○憲政本黨の宣言○三四倶樂部の方針○帝國黨の態度○貴族院各派の形勢○議員黨派別○貴族院議員異動◉〔東洋時局〕北淸事件媾和條約○列國撤兵○露淸滿洲還付條約○日英協約

第二章　會期……七二一

召集、成立、開院式○貴族院副議長○全院委員長、常任委員○閉院式

第三章　豫算案附財政諸計畫……七二二

〔政府の立案〕施政及財政の方針（總理・大藏兩大臣の演說）○三十五年度總豫算

○重要歳出○歳入種別○內外債失敗、清國償金收受、其支途○官業繰延、公債政策放棄、公債事業振替支辨財源○別種豫算◉〔衆議院の總豫算會議附 政府・政友會の妥協〕財政各案委員會○清國償金豫算編入の非難○各派の態度○政府と政友會の交渉、談判不調○談判圓熟、妥協成案○清國償金國庫受領額確定の宣言、總豫算案訂正○總豫算査定案、議了、修正額◉〔貴族院の豫算會議附 兩院協議會〕貴族院の總豫算議了○兩院協議會、豫算成立○確定豫算◉〔總豫算關係事項〕清國償金特別會計法案○國債證券買入鎖却法廢止案○公債支辨事業關係法律○行政整理の公約◉〔別種豫算〕三十四年度追加豫算○三十五年度追加豫算○臺灣總督府豫算○德島鐵道補助案、議案分割の先例○追加豫算の財源、豫備金及繰延金の流用

第四章　法律案……七四二

兩院通過法律案件銘○臺灣特別立法制有効期第二次延長○會計法

中改正（追加豫算提出制限）○選擧法別表改正（市部議員增加等）○骨牌稅新設○鷄卵輸入稅增率○樟腦專賣法案○市町村會議員資格制限案○各種法律案

第五章　雜纂……七五一

日英協約發表○三十二年度決算○豫備金其他支出、清國事件費○外交內治上の質問○軍人掠奪事件○東北大學設立の件○兩院の小衝突○足尾鑛毒問題○各種建議案

第十七回帝國議會……七五七—七九四

第一章　召集前記……七五七

〔議員〕衆議院議員總選擧（第七回）新法實施○改選議員名錄○貴族院議員異動◉〔政務〕行政整理、官制改正○海軍擴張と增租繼續◉〔政黨〕伊藤博文の歳計緊肅論○政友・憲政兩黨の聯合、伊藤・大隈の會見○政友會の決議○憲政本黨の宣言○帝國黨の意向○同志倶樂部組織○壬寅會組織○議員黨派別

第二章　會期……七七三
召集○衆議院正副議長○成立、開院式、勅語○全院委員長、常任委員、增員（衆議院）○停會連施○解散
第三章　豫算案附海軍擴張と增租問題……七七五
〔行政整理、財政計畫〕行政整理の報告（總理大臣の演說）○財政計畫說明（大藏大臣の演說）◉〔豫算案附增租繼續案〕三十六年度總豫算○歲入種別○公債事業費整理○行政整理、政費減額、舊事業繰延、新事業企畫○第三期海軍擴張○海軍擴張財源、增租案○鐵道經費增額○臺灣總督府豫算◉〔官民の對抗〕民黨の意向○行政整理問題○豫算案審査◉〔衆議院の增租案會議〕委員會の否決○增租案會議、停會○政府の誘拐策、民黨の警戒○貴族院有志の調停、民黨の謝絕○增租案撤回勸告○再停會、議員誘拐○政府の讓步、交涉不調○增租案續會、政府の言明（總理大臣の演說）○討論終結
第四章　解散……七九三

衆議院解散○豫算不成立○成果

第十八回帝國議會……七九五—八四二

第一章　召集前記……七九五
〔議員〕衆議院議員總選擧（第八回）選擧事情○改選議員名錄附議員異動○貴族院議員異動◉〔政務〕財政計畫變更○官制改正◉〔政黨〕解散後の政黨○政友會內の革新論、組織改正の希望、內訌○政友會と妥協問題、政府問責論、對議會方針○憲政本黨○同志倶樂部○帝國黨○中正倶樂部組織○政友倶樂部組織○議員黨派別◉〔東洋時局〕露國の破約、對淸要求○帝國の擧措、露國の退讓
第二章　會期……八一三
召集、會期日數○衆議院正副議長○成立、開院式、勅語○全院委員長、常任委員○停會○會期延長○閉院式
第三章　海軍擴張と其財源附增租案及募債案……八一五

〔解散問題再議〕解散議案提出○海軍擴張案○增租繼續案○政府の說明、各種の質問○增租案委員會否決◉〔政府・政友會の妥協〕政府の屈讓、伊藤の許諾○政府と政友會の交涉、妥協案○停會○政友會の妥協可認、經過顚末、會內紛擾◉〔海軍擴張新財源、議會の決定〕增租案撤回、募債案提出、財源各種○海軍擴張案可決○募債案可決○募債政策非難の建議◉〔閣臣彈劾の議〕上奏案○發案の趣旨（犬養毅の演說）○上奏案會議、政府の辯疏○否決

第四章　豫算案……八二九

三十六年度追加豫算○追加豫算濫發問題、審査方針、繼續費年割額○第三期海軍擴張費○鐵道經費增額、同財源建議○臺灣總督府追加豫算○爾餘各費目の削減修正○貴族院の議了○確定豫算

第五章　決算……八三三

三十三年度決算○檢査院の非難○衆議院の檢了、問責決議○貴族院の檢査未了

第六章　雜纂……八三六

兩院通過法律案件銘○市町村特別基金積立法案○勅令不承諾、正式立法○教科書事件問責決議○取引所事件問責決議○問責決議後の當該大臣○外交質問○豫備金其他の支出、清國事件費○各種建議案○議員資格の異議（院議）臺灣法官罷免問題の餘焰○禁錮刑被宣告議員の出席

第十九回帝國議會……八四三—八六九

第一章　召集前記……八四三

〔東洋時局〕露國の滿韓經略○帝國の對外方針○日露交涉、帝國の讓步、露國の確執、時局遷延○國論の趨勢、主戰論◉〔行政整理〕公約履行の責務○官制改正○行政整理、事業繰延、製造烟草專賣計畫◉〔政府〕伊藤博文の資格問題、桂太郎の辭表○伊藤の任官○桂の留任○閣員異動◉〔政黨及議員〕政友會の衰運、總裁更任○政

友・憲政兩黨の提携、黨員の不平○政友會の黨則改正、對議會方針○憲政本黨の內訌、對議會方針○帝國黨○同志倶樂部、自由黨再興の計畫○同志研究會及交友倶樂部組織○對露同志會○議員黨派別○貴族院議員異動

第二章　召集及解散……八六二

〔召集〕召集○貴族院議長○衆議院議長○成立○開院式、勅語◉〔解散〕衆議院の勅語奉答文議決○奉答文議決事情、各派の擧措○解散、議長參內沮止

第三章　雜纂……八六七

三十七年度總豫算概要、不成立○貴族院前議長彰功○衆議院前議長追悼○議員資格の異議（衆議院）禁錮刑被宣告後の議員資格

第二十回帝國議會……八七〇—九〇四

第一章　召集前記……八七〇

〔對露開戰〕日露交涉の遲滯、帝國政府の決意○兩國の確執、國交斷了○軍事行動開始、宣戰詔勅◉〔外交及軍事〕列國の局外中立、交戰地域限局、帝國政府の聲言○日韓議定書、施政改善の助力○日露論爭○戰鬪情況◉〔議員〕衆議院議員總選擧（第九回）○改選議員名錄附議員異動○貴族院議員異動◉〔政黨及政府〕各派の意向、擧國一致○甲辰倶樂部及無名倶樂部組織○議員黨派別○政務○專任內務大臣

第二章　會期……八八九

召集、會期日數○衆議院正副議長○成立、全院委員長、常任委員○開院式、勅語、奉答○閉院式

第三章　臨時事件費豫算案附關係各議案……八九一

〔政府の立案〕各案提出、政府の報告・說明・希望○臨時事件費總額、其財源○財政上の必要處分○非常特別稅法案、煙草專賣法案○國庫剩餘金、其種目○臨時事件費各豫算案○臨時事件費特別會計法

案○貯蓄勸業債券法案◉〔議會の決定〕增稅率修正、徵稅有期、增稅各案可決○增稅率概要○豫定收入減額、塡補策○臨時事件費豫算確定○各法律案可決○各緊急勅令承諾

第四章　雜纂……九〇一

兩院通過法律案件銘○臺灣事業公債募集○軍資辨給の決議○軍功感謝の決議○敵國間諜問題

第二十一回帝國議會……九〇五—九五六

第一章　召集前記……九〇五

〔軍事及外交〕戰程進捗○日韓新協約○中立違反問題◉〔政黨及議員〕各派の意向、政府援助○貴族院被選議員改選、議員名錄○貴族院議員異動

第二章　會期……九一二

召集、成立、開院式、勅語○全院委員長、常任委員○議席黨派別

制度○閉院式○議長及議員の受賞

第三章　臨時事件費豫算案附關係各議案……九一四

〔政府の立案〕各案提出、政府の說明○臨時事件費追加總額、其財源○財政上の必要處分○特別會計資金繰替及公債募集法案○非常特別稅改正法案、鹽專賣法案、各稅法案○國庫剩餘金○臨時事件費追加各豫算案◉〔議會の決定〕國論の趨勢、政府・政黨の妥協○增稅率修正、增稅各案可決○增稅率概要○豫定歲入減額、塡補策○臨時事件費追加豫算確定○各法律案可決、緊急勅令承諾

第四章　通常豫算案……九二四

〔政府の立案〕三十八年度總豫算○歲入出增減、歲入有餘（軍事費不用額・事業繰延・行政整理）三十七・八兩年度追加豫算○臺灣總督府豫算◉〔議會の決定〕行政整理問題○總豫算議了、修正額○別種豫算議了

第五章　決算……九二九

〔議會の檢査〕決算受領○三十四年度決算○三十五年度決算○衆議

院の檢了○貴族院の檢了◉〔上川兵營建築費不當支出問題〕事件の眞相○檢査院の非難、政府の辯明○衆議院委員會の審査、政府反覆の辯疏○政府・政黨の妥協、上奏・決議兩說消滅○衆議院の會議○兩院の斷案

第六章　法律案……九三七

兩院通過法律案件銘○臺灣特別立法制有効期第三次延長○會計法中改正諸案○郡制廢止案○鑛業法○各種抵當法○處刑猶豫法○各種法律案○貴族院被選及勅任議員々數限定

第七章　雜纂……九四五

軍功感謝の決議及上奏○私立銀行破綻救濟、不當支出の決議○豫備金及剩餘金等の支出、否決費目支出の不當決議○緊急勅令、正式立法○宅地々價修正建議○國本培養建議○航海補助費減廢建議案○各種建議案○外交諸質問○皇室の民事訴訟問題○司法權干涉問題○各種質問○當選訴訟及議員資格の異議（衆議院）官業請負と被

選權○當選訴訟二件（貴族院）（代書投票及無封投票の効力。贈賄得票者の互選資格）

第二十二回帝國議會……九五七——一〇四二

第一章　召集前記……九五七

〔軍事及國情〕戰程進捗、中立違反問題○彼我國情、戰機切迫◉〔平和克復〕米國の和議提唱、兩交戰國の肯諾○媾和會議、要求條件、逐條審議○兩國の確執、米國の調停、帝國の讓步、和約調印○媾和條約○平和の詔勅◉〔清韓處置及日英協約〕日韓新協約、統監府○日清協約○日英協約改締◉〔和約非議附官民の大衝突〕媾和尙早論、要求條件私議○談判決裂の希望、批准拒絕の議、國論勃興○國民大會の決議○帝都の大騷擾、殺傷、放火、軍隊動員○戒嚴令施行、新聞紙拘束、犯罪檢擧○騷擾の責任、詰問頻々○臨時議會召集の議、緊急勅令廢止○條約破棄及閣臣免黜の上奏及決議、終局◉〔內

閣更迭〕閣臣彈劾の題目○閣員異動○桂內閣總辭職○西園寺內閣組織、閣員異動○前後兩內閣の關係◉〔政黨及議員〕政友會○憲政本黨、其地步○大同倶樂部組織○政交倶樂部組織○國民倶樂部、失政追咎・政界革新論○議員黨派別○議員補闕の疑議○貴族院議員異動

第二章　會期……九八八

召集、成立○開院式、勅語、奉答○衆議院議長○全院委員長、常任委員○休會○閉院式

第三章　政府の言明……九九〇

施政の方針（總理大臣の演說）○現內閣と媾和條約○前閣責任追咎の議○前閣立案踏襲

第四章　各種豫算案附關係各議案……九九四

《第一、臨時事件費豫算案附關係事項》◉〔政府の立案〕平和克復後の軍事財政計畫○財政上の必要處分、外債募集、責任支出○臨時軍事費追加豫算、其支途及財源○臨時事件豫備費追加豫算、其支途及財源◉〔議會の決定〕募債勅令承諾○責任支出承諾、追加豫算協賛○臨時事件費通計總額◉《第二、總豫算案》◉〔政府の立案〕三十九年度總豫算○總豫算の二大分類○時局關係豫算、其支途及財源○通常豫算○繼續費○歲入種別◉〔議會の決定〕衆議院委員會の査定案○衆議院の議了（警視廳々舍建築費。非常特別稅、國債整理基金。臨時事件豫備費削減。爾餘の欵項）○貴議院の議了、豫算成立◉《第三、爾餘各種豫算案》三十八年度追加豫算○三十九年度追加豫算○臺灣總督府豫算○國債整理基金豫算○濠洲線航路補助費◉《第四、豫算關係重要法律案》臨時事件費財源法案○臨時事件費特別會計終結法案○國債整理基金特別會計法案○非常特別稅期限撤廢法案○稅法調査會設置の議

第五章　法律案……一〇一六

兩院通過法律案件銘○鐵道國有制度確立附關聯諸法（衆議院の可

決。貴族院の修正。法案確定、衆議院の大紛擾。京釜鐵道買收法案。鐵道會計諸法案）○關稅定率法全部改正○臺灣特別立法變形法律○統監の職權及韓國裁判事務法律○宅地々價修正案○東北凶歉救恤諸案○徵兵猶豫規定變更、癈兵院設立、恩給法改正○郡制廢止案、其他○鐵道敷設法中改正、建設費追加增額○各種法律案

第六章　雜纂……一〇三〇

頌德表、感謝狀○三十六年度決算○豫備金及剩餘金等の支出、承諾拒絕事項○緊急勅令廢止の勅令○警視廳廢止の議○帝都騷擾事件の檢擧及起訴問題○小樽官有地不當拂下事件○步兵現役二年制○各種建議案○請願事項の立法方法規定○開戰損害救濟の請願

第二十三回帝國議會……一〇四三—一一〇四

第一章　召集前記……一〇四三

〔內治及外交〕稅法調査○警視廳官制改革○地方官訓令及更迭○都

鄙騷擾（東京市街電車値上問題 足尾別子銅山同盟罷工）軍隊動員○滿洲經營、關東都督府、南滿洲鐵道會社○桑港の邦人排斥事件○對露諸問題◉〔政黨及議員〕政友會○憲政本黨、內訌、大隈の總理辭退○大同倶樂部、內訌○猶興會組織○議員黨派別○貴族院議員異動、多額納稅議員限年交替の非難○萬國議員會議參同の議、議長交際費問題

第二章　會期……一〇五四

召集、成立、開院式、勅語○全院委員長、常任委員、增員（貴族院）○閉院式

第三章　豫算案……一〇五五

〔政府の立案〕施政及財計の說明（總理大藏兩大臣の演說）○四十年度總豫算○歲出增加の理由○陸海軍經費增額○繼續費○爾餘重要歲出○歲入の種別及增減、臨時軍事費剩餘金○三十九年度追加豫算○四十年度追加豫算○鐵道經費增額○國債整理基金特別會計○臺灣總督府・關東都督府・樺太廳特別會計○豫算外國庫負擔の契約、對南滿洲鐵

道會社契約◉〔議會の決定〕衆議院委員會の査定案、未來の財源問題○各派の意向、憲政本黨の旗幟變更○衆議院の總豫算議了、全部可決(砂糖戻税訂正削除。留萌築港費の紛議。軍事費欵項組替)○貴族院の總豫算議了、北海道經費削除○總豫算成立、確定豫算○各種豫算議了○國有財産處分問題

第四章　郡制廢止案附關係事項……一〇七六

〔黨派形勢の變調〕郡制廢止案、關係諸法律案○大同倶樂部・憲政本黨の提携○政友會の孤立○衆議院の郡制廢止案可決○貴族院の郡制廢止案否決○市制・町村制・府縣制改正案、東京市制案○郡役所廢止建議案◉〔議員瀆職問題〕瀆職問題、事實調査の議○委員會の調査○瀆職問題の結尾

第五章　法律案……一〇八五

兩院通過法律案件銘○刑法全部改正○各種特別會計設定○樺太關係各法律○砂糖戻税法存續○地方税附課制限撤廢案○鹽專賣廢止

案、小切手印紙税廢止○元煙草販賣業者救助○輸出燐寸官營特許案○森林法全部改正○靑森縣囚獄救濟案○女子政談集會會同許容案○各種法律案

第六章　雜纂……一〇九五

內務・外務兩相非難○三十七年度決算○豫備金及剩餘金等の支出○外交諸質問○足尾暴動事件の質問○各種の質問○鐵道速成改善の建議○大船渡鐵道鐵業利益補給の建議○萬國博覽會開設の建議○各種建議案○各學校創立○各請願

第二十四回帝國議會……一一〇五—一一六〇

第一章　召集前記……一一〇五

〔政府〕税法整理案○財政計畫變更○閣員異動、內閣動搖事情◉〔外交〕韓王讓位、日韓協約改締○對淸諸問題、辰丸事件○日佛協約○日露協約、各種條約○太平洋對岸の排日事件◉〔政黨及議員〕政

友會○憲政本黨○大同倶樂部○猶興會、政界革新の議○議員黨派別○府縣會議員總選擧○貴族院議員異動

第二章　會期……一一一七

召集、成立、開院式、勅語、休會○全院委員長、常任委員○閉院式○衆議院議員任期滿了

第三章　財政計畫變更附問責案(財政計畫の一)……一一一九

〔財政計畫變更、政府の說明〕政府當初の計畫○元老の忠告、計畫變更○增稅及事業繰延○施政の報告(總理大臣の演說)○財政計畫說明(大藏大臣の演說)◉〔閣臣詰責の議〕決議案、各派の形勢○決議案否決

第四章　豫算案(財政計畫の二)……一一二四

〔政府の立案〕四十一年度總豫算○歲入の種別及增減、前年度繰入金(三十九年度剩餘金、軍事費剩餘金、俘虜給養費)○歲出の增減、事業繰延○繼續費、重要歲出○歲入不足額、其塡補豫算○財政六年計畫○四十・四十一兩年度追加豫算○鐵道經費增額○國債整理基金特別會計○臺灣總督府・

關東都督府・樺太廳特別會計○韓國政府立替金、統監府經費○韓國關係會社補助◉〔議會の決定、豫算成立〕衆議院の豫算會議、原案返却の議、議了、全部可決○議場の大紛亂、議長謝罪○貴族院の豫算議了○豫算成立

第五章　增稅案附稅法整理案(財政計畫の三)……一一三五

〔增稅案〕增稅科目及稅率○增稅の理由及收入額○增稅非難の國論○衆議院の增稅案可決○貴族院の增稅案可決◉〔稅法整理各案〕整理案接受、各派の意向○一部可決○地方稅附課制限緩和案、撤回及否決◉〔三稅廢止案〕否決(織物稅・通行稅・鹽專賣)

第六章　法律案……一一四四

兩院通過法律案件銘○刑法施行法、陸海軍刑法、關係諸法律○選擧法改正諸案、選擧取締法案○東洋拓殖會社法○原油輸入稅增率○北海道土地處分法全部改正○北海道鐵道救濟案○各種法律案

第七章　雜纂……一一五三

三十八年度決算○豫備金及剩餘金等の支出○外交質問(移民政策。辰丸事件の報告。對清懸案)○鐵道特別會計建議○撫順炭坑開發建議○繰延治水費復活の建議○各種建議案○請願○議員の辭職及補闕選擧問題

第二十五回帝國議會 ……一一六一—一二二三

第一章　召集前記……一一六一

〔內閣更迭、內外政務〕西園寺內閣總辭職、桂內閣組織○更迭事情○超然內閣、不偏不黨の標榜○財政整理、計畫綱要○諸般の施設、戊申詔書○日米仲裁々判條約○日米太平洋覺書○米人排日問題の進展、移民制限條約○清國事情◉〔議員及政黨〕衆議院議員總選擧(第十回)○改選議員名錄附議員異動○政友會の隆運、其嚮背○又新會組織○戊申倶樂部組織○大同倶樂部の衰運、其地步○憲政本黨內訌再燃、改革•本領兩派の反目○非政友各派合同の議、蹉跌再三、合同大小の論爭○議員黨派別○貴族院議員異動 ……一一八四

第二章　會期……一一八四

召集○衆議院正副議長任命○貴族院副議長累任○成立、開院○全院委員長、各常任委員長○閉會

第三章　豫算案附公債整理……一一八六

〔政府の立案〕施政方針、財政緊縮○四十二年度總豫算○公債整理、未募債打切、類似公債、還債增額○行政整理、經費節減、新規企畫○事業繰延、財政十一年計畫○鐵道經營費、借入金財源○遠洋航路補助費、補助契約案○四十一年度追加豫算○四十二年度追加豫算◉〔議會の決定〕論爭事項○政府•政友會の妥協、衆議院の議了○衆議院の修正事項○貴族院の議了、豫算成立

第四章　法律案……一一九八

兩院通過法律案件銘○帝國鐵道會計法案○遠洋航路補助•造船奬勵法中改正案○國債利子所得稅免除、外二法案○特許法•意匠法•

商標法・實用新案法改正案○度量衡法改正案○宅地價修正・地租改正法案○三稅廢止法案○米麥輸入稅倍課法案○商業會議所法中改正案（經費强制徵收法廢止）○砂糖關係諸法案、砂糖官營問題○日露戰役個人損害救恤法案○復祿處分行政訴訟許容法案○新聞紙法改正案○選擧法中改正案、違警罪卽決例廢止案

第五章　決算……一二〇九

三十七八年臨時軍事費決算○軍事費歲入種別、陸海兩軍歲出區分○兩院の軍事費決算檢了○三十九年度決算、兩院の檢了○土地不當拂下○占領軍の收支と決算

第六章　雜纂……一二一四

外交方針（移民滿韓集中、條約改正問題）質問續出○四十年度豫備金及剩餘金支出、兩院承諾○稅制整理・地租輕減建議案○鐵道速成改良の建議○貴族院三爵被選議員々數限定○國務大臣發言權の範疇疑義○議員資格の異議（樂議院禁錮刑被宣告者の位列權）○馬券發行の論議○懲罰事犯

（院議無視の件）○議場稀有の紛擾○憲法發布二十年祝賀會○衆議院の國際儀禮

第二十六回帝國議會……一二二四—一二六五

第一章　召集前記……一二二四

〔政黨及議員〕憲政本黨內訌終熄○非政友各派合同談再燃、破裂○中央倶樂部組織○立憲國民黨組織、又新會の末路○政友會の勢力、創立十年紀念會○議員黨派別○日糖疑獄、議員瀆職事案○貴族院議員異動◉〔內外政務〕稅制整理○韓國經營の進捗（司法權受託其他）○安奉鐵道改築問題○日淸滿洲協約○日淸間島協約○滿洲鐵道中立の議○伊藤博文の橫死、樞密院議長更任

第二章　會期……一二三四

召集、成立、開院○全院委員長、各常任委員長○閉會

第三章　豫算案附稅制整理諸案……一二三六

〔政府の立案〕四十三年度總豫算○豫算綱要○整理稅法二十四案、改正綱要○行政整理と官吏增俸、議員歲費增額○還債增額、低利借換○鐵道經營費（帝國鐵道韓國鐵道）○四十二年度追加豫算○四十三年度追加豫算◉〔議會の決定〕田畑地租輕減の世論、各派の計圖○政府●政友會の妥協、妥協條件○衆議院の稅制案議決、減租率八毛、所得稅及通行稅法案の運命、廢減稅案○貴族院の稅制案議決、宅地價修正案修正○兩院の總豫算議了、修正事項、豫算成立○爾餘豫算議了……一二四八

第四章　法律案……一二四八

兩院通過法律案件銘○關稅定率法改正案、兩院協議會、外務大臣の言明○外人土地所有權法案○電氣事業法案、兩院協議會○工場法案○製鹽地整理法案○選擧法中改正案（禁錮刑被宣告者の選擧公權に關する件）○議院法中改正案○違警罪卽決例廢止案……一二五七

第五章　雜纂……

四十年度決算（衆議院の檢了貴族院の檢了）○法律廢止の緊急勅令、事後承諾要求

問題○四十一年度豫備金及剩餘金支出、兩院承諾○鐵道速成●港灣改良兩建議、政友會の旗幟○蠶種統一の建議○文官任用令改正の建議○學制改革の建議○陪審創設の建議○請願、減租請願三千餘件○議員資格の異議（衆議院禁錮刑被宣告者の位列權）

第二十七回帝國議會……一二六六—一三一〇

第一章　召集前記……一二六六

〔韓國併合〕統治權授受條約、併韓事情○併韓詔書、李家優遇、鮮民撫恤、舊韓國對外關係○朝鮮總督府設置、新領土經營○政府の專決◉〔條約改正附對外事案〕改約準備、談判開始、政府の聲明○日米條約改締、移民渡米問題○日英條約改締、關稅問題紛議、爾餘列國改約○日露協約補成、諸懸案解決◉〔政黨及議員〕政府●政友會提携、情意投合○國民黨の地步○中央倶樂部の態度○議員黨派別○貴族院議員異動◉〔大逆、南北朝問題〕大逆の陰謀、兇徒死刑

○南北兩朝正閏問題○閣臣待罪、恩宥○大詔、恩賜、窮民濟生の企
第二章　會期……一二七八
召集、成立、開院○貴族院議長累任○全院委員長、各常任委員長
○委員會傍聽禁止制○閉會
第三章　豫算案……一二七九
〔政府の立案〕四十四年度總豫算、其綱要○海軍充實計畫變更○治
水計畫確立、借入金財源、特別會計設定○鐵道擴張、幹線廣軌計
畫、鐵道短期證券○朝鮮總督府豫算、特別會計設定、公債財源○
爾餘の經營○緊縮方針、募債と還債○四十三年度追加豫算○四十
四年度追加豫算◉〔議會の決定〕兩院の議了、豫算成立○修正事項
○鐵道豫算修正、廣軌計畫否決○豫算關係各法律案可決
第四章　法律案……一二九〇
兩院通過法律案件銘○植民地總督委任立法の件○司法事務共助法
案○所得稅法案提出督促、三稅廢止法案○商法中改正案、兩院協

議會○市制・町村制改正案○行政裁判法改正案、兩院協議會○工場
法案○蠶絲業法案○特殊各銀行法中改正案○電氣事業法案○地租
徵收手數料交付案○軍人恩給法中改正案、類似諸法案
第五章　雜纂……一三〇二
四十一年度決算（衆議院の檢了、貴族院の檢了）○決算に關する問責決議案○四十二
年度豫備金及剩餘金支出、兩院承諾○併韓關係緊急勅令、承諾事
項件銘○屬領地長官立法委任令○外交論議、問責決議案○風教問
題論議、問責決議案○政友會の鐵道・港灣政策

第二十八回帝國議會……一三一一—一三四九

第一章　召集前記……一三一一
〔內閣更迭、內外政務〕桂內閣總辭職、西園寺內閣組織○更迭事情、
政黨內閣○財政緊縮方針○臨時制度整理調査局設置○日英協約改
締（第二次）○萬國平和會議々決條約○支那革命、中華民國共和政府建

設、帝國政府の對策、國論の趨勢◉〔政黨及議員〕政友會の幸運、黨員の心事○國民・中央兩派の政府反對○議員黨派別○貴族院被選議員總改選○貴族院議員異動 ……一三二四
第二章　會期
召集、成立、開院○衆議院議長更任○全院委員長、各常任委員長○閉會
第三章　豫算案附 制度整理 ……一三二六
〔政府の立案〕施政方針、財政計畫○四十五年度總豫算○事業緊縮、經費節減○屬領地各特別會計豫算、事業新營○公債募集額○國債整理基金豫算○鐵道經營費、廣軌計畫放棄○清國事件費○四十四年度追加豫算○四十五年度追加豫算◉〔議會の決定〕衆議院の議了、次年度財源論爭、無修正可決○貴族院の議了、豫算成立◉〔制度整理問題〕制度整理進程、政府の言明○所得稅法迅速改正希望、法律・建議兩案○稅法改正案二件

第四章　法律案 ……一三三八
兩院通過法律案件銘○選擧法改正案、小選擧區制、兩院協議會（否決）○清國事件費支辨法案○保險業法中改正案○假置場法案○關稅定率法中改正案○臘虎膃肭獸獵獲禁止法案○鐵道敷設法中改正案○未決重要諸法案
第五章　雜纂 ……一三四四
四十二年度決算（集議院の檢了 貴族院の檢了）○四十三年度豫備金及剩餘金支出、兩院承諾○對支政策論爭○懲罰事犯（同僚毆打事件）○政友會の議案活殺權、地方利害問題
明治末記 ……一三五〇
衆議院議員總選擧（第十一回）○改選議員名錄○天皇崩御○明治憲政の推移

帝國議會史綱

工藤武重著

緒篇

立憲前記（維新以降議法制度の變遷）

○太政官、下議事所、徵士、貢士、五章の聖誓　幕府既に倒れ、王政古に復す。明治改元戊辰正月、首として太政官を興し、七科神祇・內國・外國・海陸軍・會計・刑法・制度を設け、三職總裁・議定・參與を置き、國家統治の紀綱を總て之を朝廷に攬り、庶政一に宸衷に斷す。太政官諸科の外に下議事所

あり、汎く英才を各藩及ひ都鄙に求めて其議員に充て、以て天下の公論を取る。下議事所に列して議事に參する者を徴士と曰ひ貢士と曰ふ。徴士は官の親しく選む所、貢士は各藩の官に薦むる所、而して其材能卓越の輩は、徴士は抽て以て參與と爲し、貢士は陞せて以て徴士と爲す。下議事所成るの後、三月十四日、天皇紫宸殿に御し、公卿群牧を會して五事を神明に誓ひ、廣く會議を興し萬機を公論に決するの大猷を樹つ。下議事所の創設・英才の徴貢、固と此大猷より發し、爾後制度の釐革、皆な準を此に取らんとす。

○三權區分、議政官上下二局　閏四月、大に太政官制を改め、西法に模倣して立法・行政・司法の三權を區分し、之を各科に配當し、而して新設議政官（太政官中の一科にして諸科の首位に居る）を以て立法の府と爲し、同時に下議事所を廢す。議政官を分て上下兩局と爲し、議定參與（徴士を含む）を以て

上局の議員に充て、貢士を以て下局の議員に充つ。兩局は其組織の性素を同しうせさると共に、亦其權能に輕重あり。上局主ら立法の權を握り、下局は唯こ上局の命を承けて某々指定の事項を審議し、以て上局の裁斷に資するに止まる。

○貢士對策所、待詔局、公議所　議政官上下兩局の外、貢士對策所あり、案を懸けて貢士の意見を徴し、又其任意献言を聽す。尋て待詔局を開き、大に言路を通し、草莽處士をして各々其言を盡して復た忌憚する所なからしむ。別に公議所を設け、公卿・諸侯・士大夫を會して博く衆議を詢ふ。勅して曰く、

朕將に東臨公卿群牧を會合し博く衆議を諮詢し國家治安の大基を建んとす抑制度律令は政治の本億兆の賴ところ以て輕しく定む可らず今や公議所法則略既に定ると奏す宜しく速に開局し局中禮法を貴び和協を旨とし心を公平に存し議を精確に期し專ら皇祖の遺典に基き人情時勢の宜に適し先後緩急の分を審かにし順次に細議し以て聞せよ朕親しく

之を裁決せん

此より先き政府新たに藩治職制を定め、各藩に執政・參政・公議人を置き、之をして常に朝旨を體して藩論を定めしむ。公議人は之を執政・參政に選み、出て丶は則ち中央政府公議所の議員に任し、以て其藩論を表言し、入ては則ち朝旨を藩内に伸へ、以て庶政の睽離を防く。公議所は汎く公卿・諸侯・士大夫を集むと云ふと雖も、各藩擧くる所の公議人實に其會の骨子たり。

○集議院 政府曩に三權鼎足の制を設くと雖も、以て實政の便を缺くと爲し、二年五月、議政官を廢し、越て七月、再ひ太政官制を改め、全然立法行政の分界を撤す。新制、從來立法權を有したる議政官上局を廢し、其議員たる議定・參與は入て行政の機務に參し、下局及び公議所は徵士・貢士・公議人と共に之を廢し、新たに集議院を

興し、各府藩縣正權大參事中より選んで之れが議員に任す。集議院規則の略に曰く、

集議院は廣く衆議を諮詢し國家治安の大基を建てたまふ御心を體し奉り億兆心力を盡すの場所なり故に議事は詔書を遵奉し太政官と心志を合し專ら政治の根本を旨とし普く時務に渉り皇國内氣脈睽離せざるを要す（文意稍々明瞭を欠くの感あるも姑らく其原文を掲く）

集議院内、別に一局を設け、汎く庶民の建言を受く。是れ固と待詔局の管掌に屬す。後ち待詔局を改めて待詔院と言ひ、遂に之を廢す。爾く集議院は舊制議政官下局・公議所及び待詔局の變體にして、其權能唯々上司の諮詢に對へて公論を披瀝し、及び庶民の建言を受くるに止まり、從來上局の如く立法の權を有するにあらす。且つ其議員の任に上る者、單に各府藩縣正權大參事に限り、夫の英才徵貢の制を撤したるを以て、公論代表の義亦自ら變するを致す。

○廢藩置縣、正院、左院、右院　四年七月、藩を廢し縣を置き、大に中央政府の職制を改め、新たに正院・左院・右院を設く。正院は天皇親臨して萬機を總判するの府にして、左院は專ら立法の審議に任し、右院は主として行政の實務を講ず。左院に議長一人・議員若干人を置き、議長は參議之を兼ね、若くは一等議員をして之を兼ねしめ、議員は一等より三等に至り、員に定限あるなく、皆な官選に繫る。凡そ制度條例を創立し、又は成規定則を增損更革するは、必す左院の審議を經るを要し、而して之を取捨するは正院の特權に屬す。左院成るの翌月、集議院を左院に隷し、尋て六年六月に及んで全く之を廢す。此に至て立法の政務竟に官權に歸し、國民は毫も之に關かる能はす。

○廷臣の軋轢、民選議院設立の建白、政黨の萠芽　此時に當りて

廷臣中新政の漸次有司專制に流るゝを憤り、此趨勢を回らして維新大詔の旨に合せしめんことを努むる者あり。或は以往數年の經驗に省み、廣く國論を徵するの實益なきを論する者あり。兩者互に相軋轢して輯睦を闕く。會ゝ韓國禮を我朝に失し、征韓の議油然として廟堂に生す。激論累日、廟議遂に征韓の非を決す。此を以て尙武派の參議數輩、袂を聯ねて廟堂を去り、或は武力を以て有司に抗せんと擬し、或は言論を以て政弊を矯めんことを期し、物情騷然たり。既にして七年一月、前參議副島種臣・同後藤象次郎・同板垣退助・同江藤新平等（正津論に依りて辭職したる者）一書を左院に提し、速かに民選議院を設けんことを建白す。其書先つ如今有司專制の弊を言ひ、之を救ふの道唯ゝ民選議院を設立して天下の公議を張るに在りと爲し、漫に租稅を國民に課して之をして議政の事に與からしめさるの非理なるを論し、

且つ現時の民智優に議政の任に堪ふることを證し、通理實勢、兩つなから民選議院の設立を必需する理由を詳說し、終りに民選議院の設立は即ち上下親近し官民和合し以て帝國の治安を保ち且つ其福祉を進むる所以なりと結論す。此論の一だび出づるや、大に一世の耳目を聳動し、是非の議論朝野に囂たり。之を概するに識者皆な民選議院の設立を以て天下の通理・救時の良策なりと爲す。或は異論を其間に挾む者ありと雖も、竟に此論の至理たるを沒することと能はず。乃ち當面相爭ふことを避け、僅に時期の遲速を以て辭と爲す。又副島等は此建白書を提すると共に、別に愛國公黨を組織し、民權論を天下に號呼す。此より全國所在に政治團體の起るを見る。

○地方官會議　民選議院設立の建白は輙く政府の採納する所と爲らす。然れども政府部內公明達識の士は、早晚民選議院を設立するの已むべからざるを認め、就中參議木戸孝允の如きは確く此說を取り、屢次上書して憲法政治の要務たるを切論す。但し有司の意、民智未だ議政の重任に堪へずと爲し、輙く民選議院設立を斷せず。多方熟慮、地方官會議を興し、地方長官をして國民に代て國政を議せしめ、漸次に國民の議政智能を養ひ、以て他年民選議院設立の素地と爲さんとし、七年五月、議院憲法及び其規則を發布す。詔して曰く、

朕踐祚の初神明に誓ひし旨意に基き漸次に之を擴充し全國人民の代議人を召集し公議輿論を以て律法を定め上下協和民情暢達の道を開き全國人民をして各其業に安んし以て國家の重を擔任すべきの義務あることを知らしめんことを希望す故に先づ地方の長官を召集し人民に代りて協同公議せしむ乃ち議院憲法を頒示す各員夫れ之を遵守せよ

政府は地方長官親しく民情を知るを以て、克く國民を代表するに足るべしと爲し、試みに官選議員をして民選議院の用を辨ぜしめんと

擬し、乃ち此制あり。現に規則中『地方長官議院に參したるときは孰も一般人民の代議士と心得べし』（後日改めて『一般人民に代り其人民の便否を協同公議すべし』と爲す）と規定す。地方官中其會議の權能狹隘なるを憾み、之を擴めて以て泰西國會の例に倣ふべきを論ずる者あり。省せられず。八年六月、初めて會議を催し、議場を公開して衆庶の參聽を許す。議案極めて輕微たり。爾後變故に妨げられ、定時開會する能はず。之を開くと雖も、世人甚だ之を重視せず。

○立憲政體創立の詔書　八年四月、新たに元老院及び大審院を置き、之をして立法司法を分掌せしめ、而して左右兩院は之を廢止す。當日勅を發して立憲政體創立の大本を定む。左の如し。

朕即位の初首として群臣を會し五事を以て神明に誓ひ國是を定め萬民保全の道を求む幸に　祖宗の靈と群臣の力とに賴り以て今日

の小康を得たり顧に中興日淺く內治の事當に振作更張すべきもの少とせず朕今誓文の意を擴充し玆に元老院を設け以て立法の源を廣め大審院を置き以て審判の權を鞏くし又地方官を召集し以て民情を通じ公益を圖り漸次に國家立憲の政體を立て汝衆庶と俱に其慶に賴らんと欲す汝衆庶或は舊に泥み故に慣るゝこと莫く又或は進むに輕く爲すに急なることなく其れ能く朕が旨を體して翼賛する所あれ

○元老院創設　元老院章程第一條に曰く『元老院は議法官にして、凡そ新法制定・舊法改正を議する所なり』と。而して其議長及び議官は特選を以て之を任し、其勅任を蒙る者は、華族・勅奏任官に昇りし者　國家に功勞ありし者・政事法律の學識を有する者、是なり。元老院成るに及んで、其規模大に整ひ、其管掌亦甚だ明かなり。政府の意、私かに元老院を以て上院に擬し、地方官會議を下院に擬す。然れど

も兩者の議員共に官の命ずる所、國民は毫も選擧の事に關かることを得ず。夫の民選議院設立の趣旨と相距ること頗る遠しと爲す。

○國憲起草の勅命　九年九月、元老院に勅して各國の成法を酌酌して憲法の草案を起創せしむ。此に於て元老院内に憲法取調局を置き、委員を擧げ、將に徐ろに憲法を立案せんとす。會〻西南變起り、國家多事にして意の如く功程を進むること能はず。後ち元老院は遂に憲法起草の事に關からず。

○府縣會、町村民會　十一年七月、府縣會規則を頒つ。府縣會は國民公選の議員を以て之を組織し、地方税を以て支辨すべき經費の豫算及び其徴收方法を議定するの任に當る。其權能此の如く狹隘なりと雖も、先年集議院廢止の後、民選議員をして國政の一部に參與せしむるは單り府縣會あるのみ。此より先き政府は町村民會を設くるの意あり、之を八年六月の地方官會議に付す。會議は公選民會の方法を擯け、區長戸長を以て民會を設くるの議を可決す。而して民選の町村會は爾後數年を經て始めて成るを告ぐ。

○國論勃興、政府の抑壓、國會期成運動　中興以來、制度の變移、略ぼ上叙の如し。顧みて民間の情勢を看れば、曩者退職參議等民選議院設立を建白したるの交、自由民權の思想早く既に國民の胸中に萠す。屢次制度を改廢して歩々官權を長するを見るに及んで、國民は皆以て所謂廣く會議を興し萬機公論に決するの聖旨に乖ふと爲し、四方の志士蹶然として起ち、盛に自由を唱へ、民權を說き、國會を設けて公論を徴するの急務たるを論じ、之を口舌に上せ、之を紙筆に訴へ、急言遏論、復た忌憚なし。政府大に之を忌み、乃ち新たに法令を頒ち、言論を抑へ、集會を妨げ、且つ人民請願の門戸を

壅きて故らに上下の間を隔絶す。志士毫も之に挫折せず、檄を飛ばし、徒を集め、盛に國論を鼓吹し、必ず其宿望を達せんことを期す。十三年三月、國會期成同盟會新たに起る。會は同志二十七結社の聯合に成り、其範圍二府二十二縣に跨り、社員凡八萬七千人を含む。議竟に國會開設を　至尊に奉請するに決し、奏疏を製し、名つけて願望書と云ひ、總代二人(福島縣河野廣中高知縣片岡健吉)を選みて之れが捧呈の任に當らしむ。總代者先づ太政官に詣り、又元老院に趨き、奏疏を示して執奏を請ふ。共に辭を法規に籍りて之を拒む。奏疏爲に竟に天聞に達せず。爾來國會開設の國論益々盛にして、四方の志士都門に麕集し、連りに大臣高官に面して其希望を陳すと雖も、竟に其省みる所と爲らず。此に至りて上下益々疎隔し、官民の反目爲に愈々長す。

○國會開設の勅諭　國論の盛なること洵に此の如く、其勢滔々浩

々として得て禦ぐべからず。會々開拓使官有物拂下の紛議あり。物論囂々として其醜怪を聲らし、其罪を有司專斷の制に歸し、凡そ此醜怪事を豫遏するの道、唯々國會を設けて嚴に之を監視するに在りと爲す。參議大隈重信深く時局に察して國會開設を唱へ、內に在りて周旋太た力む。廟議遂に國會開設に決し、發して十四年十月十二日の大詔と爲る。左に其大詔を掲ぐ。

朕　祖宗二千五百有餘年の鴻緒を嗣き中古紐を解くの乾綱を振張し大政の統一を總攬し又夙に立憲の政體を建て後世子孫繼くへきの業を爲さんことを期す嚮に明治八年に元老院を設け十一年に府縣會を開かしむ是れ皆漸次基を創め序に循て步を進るの道に由るに非さるはなし爾有衆亦朕か心を諒とせん○顧みるに立國の體國各宜きを殊にす非常の事業實に輕擧に便ならす我　祖我　宗照臨して上に在り遺烈を揚け洪謨を弘め古今を變通し斷して之を行ふ

責朕か躬に在り將に明治二十三年を期し議員を召し國會を開き以て朕か初志を成さんとす今在廷臣僚に命し假すに時日を以てし經畫の責に當らしむ其組織權限に至ては朕親ら裁し時に及て公布する所あらんとす○朕惟ふに人心進むに偏して時會速なるを競ふ浮言相動し竟に大計を遺る是宜しく今に及て謨訓を明徵し以て朝野臣民に公示す可し若し仍ほ故さらに躁急を爭ひ事變を煽し國安を害する者あらは處するに國典を以てすへし特に玆に言明し爾有衆に諭す

○太政官法制部、參事院　此より先き十三年三月、大に官制を改め、太政官内に六部（法制・會計・軍事・内務・司法・外務）を置き、參議をして之を分任せしめ、同時に參議の諸省長官を兼ぬるを停む。新設法制部の職掌は法律條例を起草改案するに在りて、其權能頗る大なりとす。既にして國會開設の勅諭煥發の同月、再び參議諸省長官兼任の制を復し、太

政官六部を廢し、新たに參事院を置く。參事院章程第一條に曰く『參事院は太政官に屬し内閣の命に依り法律規則の草定審査に參預する所とす』と。此院は元老院の議決する法案を審査し、時宜に依り内閣の命を以て再議を同院に求め、又委員を差して之と叶議するの權を有す（章程第七條第三項）即ち參事院は元老院と相駢ひて立法の事に任するものゝ如く、兩者權能の輕重甚だ明かならず。而して其實權は遙かに彼に過ぐ。

○憲法調査　國會開設の時期既に定まる。勅して參議伊藤博文を特派理事に任じ、之をして歐洲に前往して各國の憲法制度を査察せしむ。十五年三月、伊藤命を奉じて歐洲に航し、各國憲政の組織及び實情を視、又碩學の意見を叩き、留ること年餘、十六年八月歸朝す。翌十七年三月、制度取調局を宮内省に置き、憲法を審議立案

するの所とし、伊藤其長官に任じ、屬僚を督して鋭意其事に從ふ。

○政黨叢生、政論の題目　曩者國會期成同盟會を組織して上書に苦辛經營したる全國二十七結社の人士は、國會開設の大詔煥發の後、相集りて自由黨を組織し、板垣退助を戴て其總理と爲し、十月（十四年）下旬を以て其結黨式を行ふ。（先年國會開設願望書却下の際、少數の人士早く既に自由黨を組織したる事あり）翌十五年四月、立憲改進黨新たに起り大隈重信之を總理す。大隈は國會開設の大詔煥發の際、現に參議の職に在り。大詔煥發に續て官制を改革するに及んで、（參議省卿兼任制の復舊）其徒を率て野に下り、茲に此政黨を組織す。自由黨・改進黨、共に自由進歩の主義を執り、完美なる立憲政體の確立を期す。唯〻前者は佛國の政論を祖述し、後者は英國の制度に私淑するの傾あるを見る。改進黨と前後して立憲帝政黨亦起る。是れ文士福地源一郎等が當路有司の意を承けて組織する所にして、保守

漸進を主義とし、自由改進兩黨に抗して偏へに官憲を擁護せんことを期す。之を外にして地方到る所に政治團體の叢生するを見る。概ね自由改進兩黨の流を酌むものにして、其間亦官憲の羽翼たらんとするもの無きにあらず。政黨の起るに從ひ政論亦自ら囂し。主權の所在・議院の組織・選擧の方法・憲法施行後の內閣制度、是れ皆な當年の論題にして、間〻憲法欽定に云々の議を挾む者なきにあらず。

○政府の抑壓、政界萎靡、國情不穩　政黨の勢力益〻增進し、政論亦從て旺なるに及んで、政府は人權抑壓の政策を執り、連りに法律を改正して言論集會結社の自由を縮少し、苟くも我に不利なる言動を爲す者あれば、之を彈壓し之を羅織して毫も寛假せず。爲に政黨は其抱負を伸ぶるに苦しみ、其同志を集むるに艱み、枉けて自ら解散したるもの鮮からず。自由黨亦十七年十月を以て解散を敢てした

り。若し夫れ慷慨自ら禁ずる能はざるの徒は、深く政府の亡狀を憤り、『壓制政府顚覆』を標榜して起ち、頗る詭激の言論を逞ふし、所在に暴動を起し、其暴動、間々內亂罪に該るものあるに至る。然かも政府悉く之を鎭壓し、之をして一も其志を行ふことを得せしめず。爾來政論界萎靡して甚だ振はず。而して政府の威權獨り盛なり。

○內閣制創設　十八年十二月、太政官を廢し、新たに內閣制を施き、九省（外務・內務・大藏・陸軍・海軍・司法・文部・農商務・遞信）を設け、大臣・參議・諸省卿を廢し、更に內閣總理大臣及び各省大臣を置く。內閣は內閣總理大臣及び各省大臣を以て之を組織し、內閣總理大臣は各大臣の首班として機務を奏宣し、旨を承けて大政の方向を指示し、行政各部を統督す。各省大臣は入ては內閣に列して大政に參與し、出てゝは其主任の行政事務を分擔す。別に宮內省を設け其大臣を置くと雖も、內閣の員に加はらず。官制改革と同時に參事院及び制度取調局を廢し、法制局を內閣に置き、而して憲法取調の事務は內閣之に任す。

（註）新官制に依り內閣大臣に親任せられたる者左の如し。

內閣總理大臣兼宮內大臣　伯爵伊藤博文○外務大臣伯爵井上馨○內務大臣伯爵山縣有朋○大藏大臣伯爵松方正義○陸軍大臣伯爵大山巖○海軍大臣伯爵西鄕從道○司法大臣伯爵山田顯義○文部大臣子爵森有禮○農商務大臣子爵谷干城○遞信大臣子爵榎本武揚

新內閣組織より後年黑田內閣組織二十一年四月に至るまで、閣員に左の異動あり。

二十年七月二十六日、農商務大臣谷干城辭職し、子爵土方久元其後任と爲る○同年九月十七日、外務大臣井上馨辭職し、內閣總理大臣兼宮內大臣伊藤博文其兼官を免して臨時外務大臣に兼任す○同日農商務大臣土方久元宮內大臣に轉し、內閣顧問伯爵黑田清隆農商務大臣に任す○二十一年二月一日、伊藤の兼臨時外務大臣を免し、伯爵大隈重信外務大臣に專任す

○官民反目の極度　新政府は憲法草定に努むると共に、又條約改正の宿志を貫かんことを期し、全力を注ぎて其事に從ふ。既にして憲法の草案略〻其稿を脫し、條約の談判亦步武を進め、而して兩者

の內容端なく民間に漏る。國民の多數は該條約案を以て國利國權を傷くるものと爲し、又該憲法案を以て立憲の趣旨と相副はざるものと爲し、兩問題を以て政府を攻擊し、併せて租稅の輕減及び人權の伸張を求めんとす。是より國論俄かに勃興し、新聞に、演說に、交々國民の希望を披陳し、政府の處置を論難し、地方人民の總代陸續として帝都に入り、壯士橫行、蜚語百出、或は秘密出版を企つる者あり、或は示威運動を試むる者あり、政界頗る活氣を呈し來る。政府は內外の故障に妨げられ、枉げて條約改正を中止し、當局者を免黜し、而して內に對しては益々言論集會の自由を壓縮し、建議請願の門戶を壅閉し、又地方官・檢事長・鎭臺司令官等を召集して憲法・行政・國交に關する政府の意圖を示し、嚴に人民の行動を監督せしめ、遂に二十年十一月保安條例を發して志士五百有餘人を皇居三里以外

に追放す。此暗擊、一時能く國論を鎭壓したりと雖も、爲に至大の怨恨を民心に刻み、官民の相容れざること猶ほ水火の如し。

○樞密院創設、憲法欽定　內閣に於ける憲法起草の事業は着々功程を進め、二十年の末期に及んで其稿を脫す。其草案に對して民間寢々異論を生じたること前項述ぶる所の如し。既にして二十一年四月新たに樞密院を興し、至高顧問の府と爲し、憲法草案を下して其院の會議に付す。每會　聖上臨御、親しく諮詢を垂れ、會議累月に彌りて其全部を議了し、　聖上爰に大日本帝國憲法を欽定し玉ふ。

(註)樞密院の始めて興るや、內閣總理大臣伊藤博文を以て其議長に任し、農商務大臣黑田清隆を以て內閣總理大臣に任す。黑田內閣組織の後、閣員の異動を擧ぐれば左の如し。

二十一年四月二十八日、農商務大臣黑田清隆の內閣總理大臣たるに及んで、遞信大臣榎本武揚をして臨時農商務大臣に兼任せしめ、次て七月十四日、伯爵井上馨を擧げて農商務大臣に專任す○同年十二月二日、內務大臣山縣有朋歐洲に赴き、其不在中、大

藏大臣松方正義をして內務大臣に兼任せしむ。(以上憲法發布前の異動)○二十二年二月十一日、文部大臣森有禮在職中に歿し、同十六日、陸軍大臣大山巖臨時文部大臣に兼任す○三月二十二日大山の臨時文部大臣兼任を免し、遞信大臣榎本武揚文部大臣に轉し、伯爵後藤象次郎入て遞信大臣に任す○十月二日山縣歸朝し、內務大臣に復任す○十月二十五日、黑田清隆の內閣總理大臣を免し、內大臣公爵三條實美內閣總理大臣に兼任す。(以上山縣內閣組織前の異動)

○憲法發布、勅語　明治二十二年二月十一日、大日本帝國憲法を頒つ。此日　天皇憲法制定を　祖宗の　神靈に誥げ、次て文武百官・內外臣僚を會して發布の式を擧け、左の勅語を賜ふ。

朕國家の隆昌と臣民の慶福とを以て中心の欣榮とし朕か　祖宗に承くるの大權に依り現在及將來の臣民に對し此の不磨の大典を宣布す○惟ふに我が　祖我が　宗は我が臣民祖先の協力輔翼に倚り我が帝國を肇造し以て無窮に垂れたり此れ我が神聖なる　祖宗の威德と並に臣民の忠實勇武にして國を愛し公に殉ひ以て此の光輝

ある國史の成跡を貽したるなり朕我が臣民は即ち　祖宗の忠良なる臣民の子孫なるを回想し其の朕が意を奉體し朕が事を奬順し相與に和衷協同し益々我が帝國の光榮を中外に宣揚し　祖宗の遺業を永久に鞏固ならしむるの希望を同くし此の負擔を分つに堪ふることを疑はざるなり

當日勅使を　神宮及び　皇祖　皇考の山陵に派して憲法發布を奉告し、又之を維新故功臣の墓前に申告し、位階を贈り、賊名を除き、國事犯及び一般政治的犯罪を赦免し、金を全國の老耋に賜ふ。

○憲法及關係法令、詔勅　憲法と同時に皇室典範を發布し、又議院法・衆議院議員選擧法・貴族院令・會計法等、帝國議會に關する諸多の法令を發布す。憲法は七章七十六條に成り、先づ帝國の國體・天皇の大權を明かにし、次て臣民の權利義務を定め、議會の組織權能を

示し、國務大臣の責任・樞密顧問の職務・司法權の獨立・會計の施爲運用等を掲け、終りに憲法の改正方法・既定法令の効力等を定めたり。

左に憲法前置の詔勅を錄す。

朕　祖宗の遺烈を承け萬世一系の帝位を踐み朕が親愛する所の臣民は即ち朕が　祖宗の惠撫慈養したまひし所の臣民なるを念ひ其の康福を增進し其の懿德良能を發達せしめむことを願ひ又其の翼賛に依り與に俱に國家の進運を扶持せむことを望み乃ち明治十四年十月十二日の詔命を履踐し玆に大憲を制定し朕が率由する所を示し朕が後嗣及臣民及臣民の子孫たる者をして永遠に循行する所を知らしむ○國家統治の大權は朕が之を　祖宗に承けて之を子孫に傳ふる所なり朕及朕が子孫は將來此の憲法の條章に循ひ之を行ふことを愆らざるべし○朕は我が臣民の權利財産の安全を貴重し及之を保護し此の憲法及法律の範圍内に於て其享有を完全ならし

むべきことを宣言す○帝國議會は明治二十三年を以て之を召集し議會開會の時を以て此の憲法をして有効ならしむるの期とすべし○將來若此の憲法の或る條章を改定するの必要なる時宜を見るに至らば朕及朕が繼統の子孫は發議の權を執り之を議會に付し議會は此の憲法に定めたる要件に依り之を議決するの外朕が子孫及臣民は敢て之が紛更を試みることを得ざるべし○朕が在廷の大臣は朕が爲に此の憲法を施行するの責に任ずべく朕が現在及將來の臣民は此の憲法に對し永遠に從順の義務を負ふべし

○超然主義の宣言　憲法發布の後、政府は地方官を召集し、內閣總理大臣伯爵黑田清隆一場の演說を試み、至尊の盛德を奉頌し、大政の方針を訓示し、而して政府と議會との關係に對しては即ち曰く『政黨なるものゝ社會に存立するは情勢の已むべからざる所なりと雖も、政府は常に一定の方向を取り、超然として政黨の外に立ち、

至公至正の道に居らざるべからず』と。樞密院議長伯爵伊藤博文亦府縣會議長を集めて憲法の條章を解說し、主權の所在・議會の權利・宰相の責任・政黨の利害・黨派政府の危險等を論したり。即ち政府は政黨の外に立ちて憲政を運用せんとするものにして、世に之を稱して超然主義の宣言と云ふ。

○元老院の末路　往年元老院の設、以て立法の源を廣めんことを期し、新法の制定・舊法の改正、凡て元老院の議決を要するの職制を定む。然かも其後に及んで各種の機關を內閣に設け、漸次に元老院の職權を侵蝕し、政府亦之を牽束す。爲に元老院は徒らに議法の權を有し、而して其爲す所は僅に意見書を政府に提出し、又は人民の建白を受領するに過ぎず。法律勅令案は參事院又は法制局之を起草し、政府直ちに之を採擇し、元老院は概ね其閑却する所と爲る。若

し夫れ諸法典は雇聘外人之を起草し、其取調所を外務省に置き、次て之を司法省に移し、案成るの後、形式に其案を元老院に付議したるのみ。此を以て議官中、元老院の權限を擴張して泰西の立法議院と同一ならしむべしと唱ふる者あり。又憲法草案を元老院の議に付すべきの建議案を提出する者あり。一も行はれず。既にして帝國憲法實施の期漸く迫り、政府は議院開會前に發布せんとする幾多の法律勅令案を元老院の會議に付す。議官中今に及んで頗る强硬の言論を爲す者ありと雖も、毫も反響あるなく、二十三年十月二十日に及んで竟に同院を廢止し、詔勅を賜ふて各員多年の勤勞を嘉尙す。

第一回帝國議會

第一章　召集前記

◉衆議院議員

○總選擧（第一回）　明治二十三年七月一日、始めて衆議院議員の選擧を全國に行ふ。是れ實に帝國國民が手を政權に染むるの起端なり。

（註）選擧法は人口約十二萬人に就き議員一人を出すの標準を立て、郡を以て選擧區劃の根基とし、概れ二三郡を聯れて一選擧區と爲し、議員の定員は一區一人を原則とし、總員を三百人と限定す。而して選擧人は滿二十五歳以上の男子、被選人は滿三十歳以上の男子にして、共に選擧人名簿調製の期日前滿一年以上其府縣内に於て直接國稅十五圓以上を納め仍ほ引續き納むる者たるを要す。

○議員名錄、議員異動　總選擧の結果左の如し。

（註）今回總選擧執行の後、次回の總選擧に至るまで、議員に若干の異動あり。其異動事由及び補闕當選者の氏名は一々前議員氏名の下に註記す。以下倣之。

△東京府（定員十二人）　第一區楠本正隆○第二區谷元道之○第三區風間信吉○第四區藤田茂吉○第五區太田實○第六區高梨哲四郎○第七區大谷木備一郎○第八區津田眞道○第九區芳野世經○第十區森時之助（辭職、角田眞平補闕當選）○第十一區淺香克孝○第十二區高木正年

△京都府（定員七人）　第一區濱岡光哲○第二區中村榮助○第三區松野新九郎○第四區伊藤熊夫○第五區田中源太郎○同區石原半右衛門○第六區神鞭知常

△大阪府（定員十人）　第一區粟谷品三○第二區豐田文三郎○第三區浮田桂造○第四區中江篤介（辭職、村山龍平補闕當選）○同區佐々木政行○第五區菊池侃二○第六區俣野景孝○第七區東尾平太郎○第八區横山勝三郎○第九區佐々木政乂

△神奈川縣（定員七人）　第一區島田三郎○第二區山田泰造○第三區石坂昌孝○同區瀨戸岡爲一郎○第四區山田東次○第五區中島信行○第六區山口左七郎

△兵庫縣（定員十二人）　第一區鹿島秀麿○第二區堀善證○第三區法貴發（死去、田艇吉補闕當選）○第四區石田貫之助○第五區魚住逸治○第六區高瀨藤次郎○第七區內藤利八○第八區改野耕三○同區柴原政太郎○第九區佐藤文兵衛○同區靑木匡○第十區佐野助作

△長崎縣（定員七人）　第一區富永隼太○同區家永芳彥○第二區朝長愼三○第三區牧朴眞○第四區立石寬司○第五區宮崎榮治○第六區相良正樹

△新潟縣（定員十三人）　第一區山際七司（死去、小柳卯三郎補闕當選）○第二區丹後直平○同區加藤勝彌○第三區高岡忠鄕○第四區西潟爲藏○第五區小林雄七郎（死去、波多野傳三郎補闕當選）○同區長谷川泰○第六區松村文次郎○第七區關谷孫左衛門○同區本山健治○

第八區室孝次郎○同區鈴木昌司○第九區鵜飼郁次郎

△埼玉縣（定員八人）　第一區天野三郎○第二區高田早苗○同區淸水宗德○第三區眞中忠直○同區間中眞之（死去、野口駿補闕當選）○第四區堀越寬介○同區湯本義憲○第五區山中隣之助

△群馬縣（定員五人）　第一區新井毫○第二區竹井懿貞○第三區高津仲次郎○第四區木暮武太夫○第五區湯淺治郎

△千葉縣（定員九人）　第一區千葉禎太郎○第二區濱野昇○同區成島巍一郎○第三區大須賀庸之助○第四區西村甚右衛門○第五區板倉中○第六區板倉胤臣○第七區重城保○第八區安田勳

△茨城縣（定員八人）　第一區渡邊治○同區松延玹○第二區立川興○同區大津淳一郎○第三區飯村丈三郎○第四區赤松新右衛門○第五區色川三郎兵衛○第六區關口八兵衛

△栃木縣（定員五人）　第一區橫堀三子○第二區新井章吾○同區岩崎萬次郎○第三區田中正造○第四區鹽田奥造

△奈良縣(定員四人)　第一區今井勤三○第二區堀內忠司○同區本間直○第三區櫻井德太郎

△三重縣(定員七人)　第一區栗原亮一○第二區伊東祐賢○第三區天春文衛○第四區伊藤謙吉○第五區尾崎行雄○同區北川矩一(辭職、角利助補闕當選)○第六區立入奇一

△愛知縣(定員十一人)　第一區堀部勝四郎○第二區永井松右衛門○第三區梶田喜左衛門○第四區宮田愼一郎(辭職、松山義根補闕當選)○第五區森東一郎○第六區青樹英二○第七區端山忠左衛門○第八區早川龍介○第九區今井磯一郎○第十區加藤六藏○第十一區美濃部貞亮

△靜岡縣(定員八人)　第一區井上彥左衛門○第二區影山秀樹○第三區岡山兼吉○第四區岡田良一郎○第五區西尾傳藏○第六區近藤準平○第七區依田佐二平○同區江原素六

△山梨縣(定員三人)　第一區八卷九萬○第二區田邊有榮○第三區古屋

專藏

△滋賀縣(定員五人)　第一區杉浦重剛(辭職、川島卯一郎補闕當選)○第二區山崎友親○第三區大東義徹○同區伊庭貞剛(辭職、中小路與平治補闕當選)○第四區相馬永胤(辭職、脇坂行三補闕當選)

△岐阜縣(定員七人)　第一區天野若圓○第二區清水粲藏○第三區吉田耕平○第四區矢野才治郎○第五區長尾四郎右衛門○第六區林小一郎○第七區中村信夫

△長野縣(定員八人)　第一區小坂善之助○第二區島津忠貞○第三區堀內賢郎○第四區小里頴永○同區江橋厚○第五區箕輪鼎○第六區中村彌六○第七區伊藤大八

△宮城縣(定員五人)　第一區增田繁幸○第二區武者傳二郎○第三區十文字信介○第四區熱海孫十郎○第五區遠藤溫(辭職、佐藤運宜補闕當選)

△福島縣(定員七人)　第一區佐藤忠望○第二區安部井磐根○第三區河

野廣中○同區鈴木萬次郎○第四區山口千代作○同區三浦信六○第五區白井遠平

△巖手縣（定員五人）　第一區谷川尙忠○第二區伊東圭介○第三區佐藤昌藏○第四區下飯坂權三郎○第五區大江卓

△青森縣（定員四人）　第一區奈須川光寶○同區工藤行幹○第二區榊喜洋芽○第三區菊池九郎

△山形縣（定員六人）　第一區宮城浩藏○同區佐藤里治○第二區五十嵐力助○第三區駒林廣運○同區鳥海時雨郎○第四區丸山督

△秋田縣（定員五人）　第一區二田是儀○第二區成田直衛○第三區佐藤敏郎○第四區齋藤勘七○同區武石敬治

△福井縣（定員四人）　第一區青山庄兵衛○第二區杉田定一○第三區永田定右衛門○第四區藤田孫平

△石川縣（定員六人）　第一區松田吉三郎○同區遠藤秀景○第二區相川久太郎（當選無效、杉村寬正當選）○第三區淺野順平○同區神野良

○第四區小間肅

△富山縣（定員五人）　第一區關野善次郎○同區磯部四郎（退職、石坂專之助補闕當選）○第二區田村惟昌○第三區南磯一郎○第四區島田孝之

△鳥取縣（定員三人）　第一區岡崎平內（辭職、木下莊平補闕當選）○第二區山瀨幸人○第三區松南宏雅（辭職、門脇重雄補闕當選）

△島根縣（定員六人）　第一區岡崎運兵衛○第二區佐々木善右衛門○第三區高橋久次郎○第四區菅了法○第五區佐々田懋○第六區吉岡倭文麿

△岡山縣（定員八人）　第一區小林樟雄○同區坪田繁○第二區西毅一○第三區犬養毅○第四區坂田丈平○第五區渡邊磊三○第六區立石岐○第七區加藤平四郎

△廣島縣（定員十人）　第一區豐田實穎○同區渡邊又三郎○第二區八田謹二郎○第三區金尾稜嚴○第四區赤川靈嚴○第五區脇榮太郎○第

六區田邊三五郎○第七區佐竹義和○第八區倉田準五郎○第九區三浦義建(死去、井上角五郎補闕當選)

△山口縣(定員七人) 第一區吉富簡一○同區末松三郎(復姓光妙寺)○第二區井上正一(退職、堅田少輔補闕當選)○第三區大岡育造○第四區堀江芳介○同區野村恒造(辭職、矢島作郎補闕當選)○第五區吉川務

△和歌山縣(定員五人) 第一區陸奥宗光(辭職、岡崎邦輔補闕當選)○同區和田譽終○第二區兒玉仲兒○第三區松本鼎○同區關直彥

△德島縣(定員五人) 第一區井上高格○第二區守野爲五郎○第三區川眞田德一郎○第四區橋本久太郎○第五區阿部興人

△香川縣(定員五人) 第一區中野武營○第二區小西甚之助○第三區綾井武夫○第四區三崎龜之助○第五區伊藤一郎

△愛媛縣(定員七人) 第一區藤野政高○同區長屋忠明○第二區石原信樹○第三區有友正親○第四區鈴木重遠○第五區牧野純藏○第六區末廣重恭

△高知縣(定員四人) 第一區竹內綱○第二區片岡健吉○同區林有造○第三區植木枝盛

△福岡縣(定員九人) 第一區津田守彥○第二區小野隆助○同區香月恕經○第三區權藤貫一○第四區佐々木正藏○第五區十時一郎○第六區岡田孤鹿○第七區堤猷久○第八區末松謙澄

△大分縣(定員六人) 第一區元田肇○第二區箕浦勝人○第三區朝倉親爲○第四區宇佐美春三郎○第五區安東九華○第六區是恒眞楫

△佐賀縣(定員四人) 第一區松田正久○同區武富時敏○第二區天野爲之○第三區二位景暢

△熊本縣(定員八人) 第一區佐々友房○同區前田案山子○第二區木下助之○第三區古莊嘉門○同區紫藤寬治○第四區岡次郎太郎○第五區山田武甫○第六區松山守善(當選無效、小崎義明當選)

△宮崎縣(定員三人) 第一區川越進○第二區安田愉逸○第三區三宅正

意

△鹿兒島縣（定員七人）　第一區樺山資美○第二區折田兼至○第三區長谷場純孝○第四區宇都宮平一○第五區河島醇○第六區蒲生仙○第七區基俊良

◉貴族院議員

◎總員、各級議員　第一回帝國議會に列する貴族院議員の總數は、二百五十二人にして、皇族及び公侯爵を有する者は、貴族院令定むる所の年齢に達すると共に上任し、同令に所謂國家に勳勞あり又は學識ある者は、明治二十三年十月以後隨時勅任せられ、伯子男爵議員は同年七月十日を以て同爵間に之を互選し、多額納稅議員の互選會は同年六月十日を以て之を行ひ、九月二十七日を以て勅任を蒙る。

（註）各府縣に於て土地或は商業工業に付多額の直接國稅を納むる者十五人の內より一人を互選して勅任せられたる者は、其上任の主要條件たる互選の一事は宛かも伯子男爵議員に似たりと雖も、別に勅任の條件を要するの點は、却て有勳有識の勅任議員に類すと云ふべし。但し等しく勅任の條件を要すと雖も、有勳有識勅任議員と多額納稅互選勅任議員とは、其性質に於て著しき差異あるは論を須たず。而して一々正式の稱呼を用ゆるは煩に堪へざるを以て、本書中、前者は單に勅任議員と呼び、後者は之を多額納稅議員と呼ふ。

◎議員名錄

貴族院各級議員氏名左の如し。

△皇族議員（十人）　熾仁親王○晃親王○彰仁親王○貞愛親王○朝彥親王○能久親王○威仁親王○載仁親王○依仁親王○邦憲王

△公爵議員（十人）　九條道孝○三條實美○毛利元德○島津忠義○德川家達○岩倉具定○鷹司熙通○二條基弘○近衛篤麿○島津忠濟

△侯爵議員（二十人）　廣幡忠禮○醍醐忠順○德大寺實則○淺野長勳○德川茂承○蜂須賀茂韶○久我通久○西園寺公望○細川護久○鍋島直大○尙泰○池田章政○前田利嗣○德川篤敬○菊亭修季○中御

門經明○嵯峨公勝○中山孝麿○大久保利和○德川義禮○木戸孝正

△伯爵議員（十五人）　松浦詮○伊藤博文○柳原前光○上杉茂憲○小笠原忠忱○廣橋賢光○大原重朝○中川久成○冷泉爲紀○松方正義○立花寛治○井伊直憲○清棲家敎○山田顯義○正親町實正

（註）互選の後、宮內省の內規を以て同省官吏例外の議員を兼ぬるを禁し、樞密院亦同樣の內規を定めたるを以て、樞密顧問又は宮內官吏にして當選したる者は皆な議員の任を辭し、其補欠として前日投票の次點者を擧げたり。清棲家敎以下三人は即ち補欠當選者なり。

△子爵議員（七十人）　勘解由小路資生○立花種恭○鍋島直彬○大給恒○加納久宜○谷干城○大河內正質○堀田正養○松平乘承○京極高典○壬生基修○米津政敏○福羽美靜○岡部長職○海江田信義○仙石政固○由利公正○三浦梧樓○林友幸○鳥居忠文○板倉勝達○山內豐誠○新莊直陳○島津忠亮○久松定弘○本多正憲○河田景與○松平信正○久世通章○舟橋遂賢○竹內惟忠○大迫貞清○鳥尾小彌太○宍戸璣○伊集院兼寛○青木周藏○清岡公張○柳澤光邦○酒

井忠彰○田中光顯○九鬼隆義○五條爲榮○內藤政共○黑田淸綱○相良賴紹○井上勝○松平直哉○靑山幸宜○佐竹義理○山口弘達○關博直○唐橋在正○河鰭實文○一柳末德○大村純雄○鍋島直虎○平松時厚○日野西光善○細川興貫○伊東祐麿○秋田映季○土方雄志○長谷信篤○松平康民○京極高德○津輕承叙○本莊壽巨○久留島通簡○大久保忠順○岩下方平

（註）前同一の理由に依り當選者中十九名辭職し、次點者を以て之を補充す。唐橋在正以下は其補欠當選者なり。

△男爵議員（二十人）　長岡護美○渡邊淸○槇村正直○神山郡廉○楫取素彥○千家尊福○菊池武臣○高崎五六○金子有卿○靑山貞○中川興長○本田親雄○西五辻文仲○伊達宗敎○鶴殿忠善○杉溪言長○小松行正○本多副元○藤枝雅之○若王子遠文

（註）前同一の理由に依り藤枝雅之以下二人は次點者を以て之を補充す。

△勅任議員（六十一人）　岩村通俊○山口尙芳○津田出○細川潤次郎○

神田孝平○伊丹重賢○箕作麟祥○西周○九鬼隆一○野村素介○三浦安○加藤弘之○小畑美稻○男爵小澤武雄○渡邊驥○福原實○岡內重俊○柳楢悅○原田一道○尾崎三良○中井弘○三好退藏○岩崎彌之助○田中芳男○安藤則命○松本順○藤村紫朗○國司順正○長與專齊○中村正直○西村茂樹○渡正元○村田保○橋本綱常○山川浩○沖守固○森岡昌純○澁澤榮一○重野安繹○伊東己代治○川田剛○濱尾新○木梨精一郎○前田正名○金子堅太郎○丸山作樂○平田東助○今村和郎○村田經芳○奈良原繁○富田鐵之助○川田小一郎○外山正一○菊池大麓○穗積陳重○堀眞五郎○古市公威○小中村清矩○小幡篤次郎○周布公平○伯爵東久世通禧

△多額納稅議員(四十五人)　(東京)渡邊治右衞門○(京都)吉田三右衞門○(大坂)久保田眞吾○(神奈川)梅原修平○(兵庫)川崎正藏○(長崎)諫早一學○(新潟)市島德次郎○(埼玉)關口彌五○(群馬)櫻井伊兵衞○(千葉)五十嵐敬止○(茨城)山崎愼三○(栃木)菊地三郎

○(奈良)中村雅眞○(三重)林宗右衞門○(愛知)蟹江史郎○(靜岡)宮崎總五○(山梨)若尾逸平○(滋賀)下鄕傳平○(岐阜)渡邊甚吉○(長野)山田莊左衞門○(宮城)金須松三郎○(福島)角田林兵衞○(岩手)工藤寬得○(青森)野村治三郎○(山形)長谷川直則○(秋田)池田甚之助○(福井)山田穰○(石川)岡野是保○(富山)馬場道久○(鳥取)桑田藤十郎○(島根)田邊長左衞門○(岡山)野崎武吉郎○(廣島)澤原爲綱○(山口)瀧口吉良○(和歌山)前田謙祐○(德島)三木與吉郎○(香川)鈴木傳五郎○(愛媛)村上桂作○(高知)島內武重○(福岡)鹿毛信盛○(大分)水之江浩○(佐賀)原忠順○(熊本)井芹典太○(宮崎)小田清兵衞○(鹿兒島)男爵島津珍彥

○議員異動　右貴族院議員上任の後、第一議會閉會に至るまでの間に於て左の異動ありたり。

△補闕當選　伯爵萬里小路通房

△辭職　伯爵柳原前光○神田孝平○西周○今村和郎
△死亡　柳楢悅○子爵九鬼隆義○國司順正○公爵三條實美

◉政府

○黑田內閣、三條內閣、山縣內閣　帝國憲法發布の際、內閣を總理したる者を伯爵黑田清隆と爲す。此內閣は條約改正問題に關して大に民間の攻擊を蒙り、又官人の反對を受け、閣裡全然統一を缺き、遂に外務大臣伯爵大隈重信の負傷と共に（二十二年十月十八日）閣員擧な辭表を捧くるの已むへからさるに至る。（大隈を除く）二十二年十月二十五日、黑田清隆の內閣總理大臣を免し、內大臣公爵三條實美をして內閣總理大臣を兼ねしめ、他の各大臣の辭表は之を却く。次て十二月二十四日、內務大臣伯爵山縣有朋を內閣總理大臣に任し、內務大臣を兼ねしめ、

同時に大隈の本官を免し、外務次官子爵青木周藏を以て外務大臣に任し、農商務大臣伯爵井上馨の本官を免し、農商務次官岩村通俊其後を襲ふ。此より先き樞密院議長伯爵伊藤博文、井上と共に條約改正案に反對して俄然辭表を呈し、十月三十日を以て聖允を得たり。次て山縣內閣成立の後、樞密顧問兼元老院議長伯爵大木喬任樞密院議長に任せらる。

○閣員の配置及異動　山縣內閣々員の配置左の如し。

內閣總理大臣兼內務大臣伯爵山縣有朋○海軍大臣伯爵西鄕從道○司法大臣伯爵山田顯義○大藏大臣伯爵松方正義○陸軍大臣伯爵大山巖○文部大臣子爵榎本武揚○遞信大臣伯爵後藤象次郎○外務大臣子爵青木周藏○農商務大臣岩村通俊

新內閣組織後、第一回議會に至るまて、閣員に一二の異動あり。即ち二十三年五月十七日、山縣有朋の兼內務大臣を免し、海軍大臣西

鄉從道内務大臣に轉し、海軍次官子爵樺山資紀海軍大臣に任し、榎本武揚の文部大臣を免し、内務次官芳川顯正其後任と爲り、岩村通俊の農商務大臣を免し、特命全權公使陸奥宗光其後任と爲る。

○官制改革、大臣副署制の改正、機密保持　十二月二十四日山縣内閣成立當日　三條内閣員の聯署外務農商務兩大臣を除く を以て一片の奏疏を捧げ、内閣の組織を鞏固にし、方嚮を統一し、責任を明白にし、政機を縝密にするの必要なるを論じ、現制内閣總理大臣の權力廣大に過ぐるを以て、宜しく官制を改め、各省大臣をして其主任事務に就て專ら副署の任に當らしむべしと云ひ、又内閣の機密を保持するは立憲政治の一大要義なりと爲し、意見の異同を問はず、在職中と退罷後とを論せず、君主の特許を受くるにあらずんば、斷じて内閣の機密を外間に漏洩すべからざるを論じたり。奏疏裁可を蒙り、翌日を以て内閣官制を

公布す。即ち少しく内閣總理大臣の權力を縮め、主務大臣副署の制を改め、閣議に付すべき事項を條列し、又各省大臣の外、特旨に依り閣議に列せしむるの國務大臣を設く。

○政府の政黨觀　山縣内閣は固く所謂超然主義を執り、成立後未だ幾くならずして一訓令を地方官に下し、諄々として誡むる所あり。其訓令の要旨は左の數句に歸す。

各位は宜しく屹然として中流の砥柱たるべきのみならず亦宜しく人民の爲に適當の標準を示し其偏頗を抑へ向ふ所を謬らざらしむることを勉めざるべからず(中略)要するに行政權は　至尊の大權なり其執行の任に當る者は宜しく各種政黨の外に立ち引援附比の習を去り專ら公正の方向を取り以て職任の重きに對ふべきなり云々

且つ政府は深く黨派政論の害を認め、地方官の其渦中に投ずるを禁ずるのみならず、之をして人民を指導して可及的政論に遲づくことなからしめんことを勉めたり。

◉政黨

○總選擧前の政黨事情　明治十四年、國會開設の大詔と相前後して起りたる幾多の政黨は、政府の壓迫に耐へずして相踵て解散し、若くは其團體を維持するも、多年の間空しく沈默す。次て明治二十年條約改正問題の起るに及んで、政論頗る囂しきを致すと雖も、當時言論集會の束縛一層の嚴を加へ、且つ保安條例の暗擊あり、政界爲に再ひ寂寥に歸す。此時に當りて伯爵後藤象次郎大同團結論を天下に號呼し、頗る四方の政客を吸集したりと雖も、二十二年三月、後藤の入閣すると共に黨與四散し、或は大同倶樂部を起し、或は大同協和會を作り、次て更に其組織を改め、或者は自由黨を再興し、或者は愛國公黨を創設し、或者は依然として舊團體を維持す。既に

して憲法實施期の漸く迫るに及んで、政界自ら活氣を呈し、地方到る所に政黨崛起し、既成政黨は其勢力を張るに努め、各派相對峙して第一回衆議院議員總選擧場裡に驅馳したり。

○進步團體聯合の議、立憲自由黨組織　總選擧以前、舊大同團結三派の間に立ちて合同を策する者あり。三派亦自ら分立の不利なるを認め、假りに庚寅倶樂部を組織して他日合同の素地を爲す。會〻九州同志會敢然起て全國進步主義團體大聯合の議を唱へ、委員を東京に派して大同三派及ひ改進黨に交渉す。各派皆な之を拒まず、議頗る進む。此時に當りて政府は集會政社法を改正し。政社聯結の禁制を嚴にし、大に各派の行動を沮碍す。各派は遂に各〻其黨を解て進步的一大政黨を樹つるの方策に出て、着々談判の步を進む。但〻大同三派中、改進黨と事を與にするを屑しとせざる者あり。改進黨

亦新政黨の主義を表明すべき文案に異論を抱き、協議圓熟を缺く。此に於て改進黨は同盟より脱し、他の四派は各〻其黨を解きて新たに一大政黨を組織し、名つけて立憲自由黨と云ひ、九月十五日（二十三年）其結黨式を行ふ。此黨は自由主義を把る旨を宣言し、其綱領として左の三項を擧げ、別に今後施設改廢すべき事項十條を數へたり。

皇室の尊榮を保ち民權の擴張を期す○內治は干涉の政略を省き外交は對等の條約を期す
○代議政體の實を擧げ政黨內閣の成立を期す

新立々憲自由黨は政府反對黨として第一議會に臨まんとするものにして、多少の異分子を其內に交ゆ。

○改進黨　改進黨は明治十五年創立已來存續して以て今に至る。此黨亦進步主義を把る。故を以て當初全國進步主義團體大聯合の議に參加したりと雖も、中道同盟より脱したること前述の如し。然れども同黨は終始民黨として第一議會に立ち、政府反對黨の中堅を以て自ら任す。

○大成會及國民自由黨組織　總選擧執行の後、中立議員相集りて大成會を組織し、又舊大同團結の黨與中、立憲自由黨に赴かざる者相集りて國民自由黨を組織す。兩者の內部殆んど共通し、共に保守主義を把り、特に國權問題に重を措く。兩派は既成政黨の外に立ち、實地問題を研究して協贊の任を盡さんことを表言すと雖も、其所屬議員中官憲に接近する者頗る多く、時人之を目するに政府黨を以てす。

○議員黨派別　當時各黨派の形勢大要上述の如し。更に新選衆議院議員の黨派別を示すこと左の如し。

自由黨百三十人○大成會七十九人○改進黨四十一人○國民自由黨五人○自餘の小黨派又

は無所屬及び未詳四十五人

○貴族院の各團體　貴族院各級議員は上任後屢〻相會して懇親會を催し、又政務調査の事に從ふ。其後に及んで楷級又に尙好の異同に依り幾多の小團體を現出したりと雖も、其團體は單一の倶樂部たるに過ぎずして、固より政黨を以て目すべからず。從て政治上何の活動する所なし。而して貴族院議員は何れの楷級又は團體に屬するを問はず、概ね政府の掩護者を以て自ら任せざるはなし。

第二章　會期

○召集　第一回帝國議會は明治二十三年十一月二十五日を以て東京に召集せらる。（此召集勅諭は同年十月九日發布）

○貴族院正副議長、假議長　是、〻り先き十月二十五日、伯爵伊藤

博文を貴族院議長に任じ、伯爵東久世通禧を同院副議長に任ず。會期中、正副議長共に病に臥し、公爵近衛篤麿假議長に任ず。

○衆議院正副議長　衆議院は召集當日先づ正副議長各三名の候補者を選擧す。其結果左の如し。

議長候補者　中島信行○津田眞道○松田正久

副議長候補者　津田眞道○楠本正隆○芳野世經

翌二十六日、中島信行議長に、津田眞道副議長に各〻勅任せらる。

（註）衆議院が正副議長候補者各三名を選擧するは議院法第三條の規定に依る○同院は當時議長候補者を擧ぐる爲に三回の投票を行ひ、副議長候補者を擧ぐる爲に五回の投票を行ひ、始めて能く其候補者の定員を滿すことを得たり。投票の過半數を得たる者なきを以て、衆議院成立規則に遵ひ已むを得ず屢〻決選投票を行ひたるなり。

○兩院成立　貴族院は召集當日各員の部屬を定め、部長及び理事を選擧し、衆議院は正副議長任命の翌日同一手續を行ひ、（衆議院には別に議席次

序を定むるの事あり）茲に兩院の成立を告げたり。

○開院式、勅語　十一月二十九日、車駕親臨して第一回帝國議會開院の式を行ひ、左の勅語を賜ふ。

朕貴族院及衆議院の各員に告ぐ○朕即位以來二十年間の經始する所内治諸般の制度粗〻其の綱領を擧げたり庶幾くは　皇祖　皇宗の遺德に倚り卿等と俱に前を繼き後を啓き憲法の美果を收め以て將來に益〻我か帝國の光烈と我か臣民の忠良にして勇進なる氣性とをして中外に表明ならしむることを得む○朕又夙に各國と盟好を修め通商を廣め國勢を振張せむことを期す幸に締約諸國の交際は益〻親厚を加へたり○陸海の軍備は内外の平和を保全する爲に歲を積て完實を期せざるべからず○明治二十四年度の豫算及各般法律案は朕之を國務大臣に命して議會の議に付せしむ○朕は卿等が公平愼重以て審議協贊する所あることを期し併せて將來に繼くべ

きの模範を貽さむことを望む

○兩院奉答　兩院は右勅語に對して各〻奉答書を捧げたり。衆議院に於ては勅語に奉答するを以て虛禮に過ぎずと論ずる者あり。院議之を斥く。兩院の奉答書左の如し。

△貴族院の奉答　臣貴族院議員等誠恐誠惶恭て　叡聖文武天皇に上奏す　陛下聖德日に躋り大憲を煥發し議會を設け衆思を衆め以て興に俱に國家の進運を扶持せしめんことを望み賜ひ今や兩議院を會同せしめ親しく開院の盛典を擧げ優渥なる勅旨を賜ふ臣等區々の微衷專ら帝國の隆昌を冀ひ併せて臣民の慶福を祈る敢て大憲の條章を恪遵し所見を啓瀝して以て皇猷を贊襄する所あるを期せさらんや臣等恐懼の至りに堪へす謹て奉答す

△衆議院の奉答　恭く惟に我　天皇陛下帝國議會開院の盛式を擧け優渥なる聖詔を賜へり臣等感喜の至に堪へず臣等是より心力を盡し協贊の責を全し以て　陛下の信任に對へ以て國民の委託に酬んとす茲に謹て奉答す

兩院各〻右奉答書を捧ぐるや、　天皇陛下は兩院の深厚なる敬禮を嘉みする旨宣はせられたり。（奉答書棒呈は毎期議會の慣例と爲り、其文言略〻相同しきを以て、特種の奉答書にあらさる限りは

今後之か樣錄を略す。開院の勅語亦然り。）

○兩院規則、全院委員長、常任委員　次て兩院は各〻其院の規則を議決し、兩院協議會規程を案定し、全院委員長及び常任委員を選擧し、是より本會議を開くの順序に進む。貴族院の全院委員長は細川潤次郎にして、衆議院の全院委員長は島田三郎なり。

（註）議會開院前、政府は勅令を以て兩院成立規則を設け、新議院をして假りに之に據らしめたり。新議院は此勅令及ひ政府編制の規則案を基礎として自ら其院の規則を作成す○衆議院に於ける全院委員長の選擧、亦過半數の得票を要するの規則に妨けられ、三回の投票を行ふて僅に選擧を終りたり。爲に關係規則に改正を加ふ○衆議院全院委員長選擧に際し、議長亦一般議員と均しく投票權を行ふ○貴族院は豫算・懲罰・請願・資格審査の四委員を常任とし、衆議院は資格審査を除きたる三委員を常任とす。後年政府が決算を議會に提出するに及んで、兩院共に決算委員を常置す。

○會期延長　二十四年二月二十六日豫定の會期滿了す。二十六日勅命煥發し、二十七日より三月七日まで九日間、會期延長を命ぜらる。

（註）帝國議會の會期は通常三個月と定め、開院式擧行當日より起算し、之を算するに日を以てす。

○會期滿了　三月七日會期滿了の當日、諸般の議事を終るの後、兩院議長は各〻其院の經過成績を述べ、各員の勞を謝して閉會を告ぐ。特に貴族院議長伊藤博文は退散後の議員を再び議場に招集して帝國憲法制定の由來を演說したり。

○閉院式　翌八日、兩院議員を宮中豐明殿に召して閉院式を行ひ、勅語を賜ひ、各員連月勵精の勞を嘉奬あらせらる。

第三章　政府の言明

○施政の方針（總理大臣の演說）　十二月六日、內閣總理大臣山縣有朋衆議院に臨みて施政の方針を演說す。其演說の要旨を摘めは、先づ『大政

維新と共に國是を一定し、舊幕府以來の鎖港主義を打破し、上下一致、以て宇内の大勢に相副はんことを努めたりと雖も、未だ其目的の半だも達せず』と云ひ、今後の要務として『行政及司法の制度を整備して其運用を敏活ならしめ、農工及通商を奬勵作興して國力を養ひ、同時に國家の獨立を保持し國勢を振張せざるべからず』と云ひ、特に重を國家の獨立及ひ國勢振張に置き、此目的を達せんが爲に巨大の軍費を要求する旨を述ぶ。此點に關しては演説中左の言あり。

蓋國家獨立自衛の道は一に主權線を守禦し二に利益線を防禦するに在り何をか主權線と謂ふ國疆是なり何をか利益線と謂ふ我が主權線の安全と緊く相關係するの區域是なり凡そ國として主權線を守らざるはなく又均しく其の利益線を保たざるはなし方今列國の際に立ち國家の獨立を維持せんと欲せば獨り主權線を守禦するを以て足れりとせず必や亦利益線を防護せざる可らず今者吾人果して主權線を守るに止まらず亦利益線を保ち以て國の獨立を完全ならしめんとせば其の事固より一朝空言の能くすべきに非ず必や國の資力の許す限り寸を積み尺を累ね以て成績を見るの地に達せざるべからざるなり故に陸海軍の爲に巨大の金額を割かざるべからざるの須要に出るのみ

○財政報告（大藏大臣の演説）

次に大藏大臣松方正義は財政計畫に關して一場の演説を試む。其演説中、豫算の計數に渉るものは便宜之を次章豫算の部に讓り、國債及び紙幣に關する事項を摘記すること左の如し。

維新已來明治二十三年八月に至るまでの國債總額は三億九千九百萬餘圓にして、爾後年々償還し、現今尚ほ二億五千四百万餘圓を存す。（内五百萬餘圓は外債）外に紙幣償却の爲め日本銀行より借入金二千二百萬圓を合せ國債總額二億七千六百餘萬圓と爲る。若し從來の方針に從ひ年々二千萬圓以上を支出して國債元利の支拂に充てなば、今後凡三十年にして全部を償還することを得べし○維新已來發行せる紙幣總額は一億二千萬餘圓にして、爾後漸次に之を整理し、千四百萬餘圓は公債證書に引換へ、四千三百萬餘圓は正貨を以て交換し、二千四百萬餘圓は直ちに償却に付し、現今尚ほ四千萬餘圓を存す。今や其償却資金を國庫に設けたるを以て、今後數年ならずして紙幣の全部を償却することを得べし。

○行政各部門の質問及答辨

右總理・大藏兩大臣の演説を聞くの

後、各議員は國務各部門に渉りて尙ほ其詳細の方針を知らんと欲し、新井章吾等の名を以て四個條の質問書を提出す。政府は之に對して一々答辨する所ありたり。左に其問答の要領を掲ぐ。

△敎育の方針　本件質問は『高等敎育を主とする乎、普通敎育を主とする乎』と云ふに在り。文部大臣芳川顯正口頭之に答て曰く『兩者共に國家人文に必要あり。政府は均一に之を擴張普及せんことを期す』と。

△殖産興業の方針　本件質問は『積極の方針を取る乎、消極の方針を取る乎』と云ふに在り。農商務大臣陸奥宗光覆牒して曰く『本問行政は廣汎多岐に渉り、之を概言する能はず。且つ所謂積極消極の意義明晰を欠き、答辨を爲すに由なし』と。

△國防の方針　本件質問は『軍備擴張は防禦の必要に止むる乎、海陸軍孰れを主とする乎、兩者共に之を擴張せんとする乎』と云ふに在り。陸軍大臣大山巖及び海軍大臣樺山資紀は共に之に對して『帝國の軍備は國家を防衞するを以て目的とし、海陸兩軍の間に主客の別を置くことなし』と答へたり。而して陸軍大臣は粗〻現時の陸軍編制に滿足する旨を述べ、海軍大臣は帝國の國防を維持するが爲に、十二萬噸の海軍力を常備するの必要ありと爲し、今後數年間に必ず此噸數を滿たすの計畫なる旨を明言したり。

△外交の方針　本件質問は『條約改正の成行及其方針如何』と云ふに在り。外務大臣青木周藏出て〻之に答ふ。其答辨は條約締結の歷史及び其改正事業の經過を叙し、帝國の人文と進運とは現行條約を改正するの必要ありと爲し、政府は現に列國と談判中に在るの意を漏らしたりと雖も、其方針に關しては外交機密を辭として答辨する

事を拒みたり。議員は尙ほ進みて其詳を聞かんと試みたりと雖も、外務大臣旣に其席に在らず。出席を促かすも遂に應ぜず。此に於て兩院議員は交〻文書を以て條約改正の方針を質問する所あり。之に對する政府の答辨は大要下の如し。曰く『外人に內地雜居を許す。土地所有權を與へず。沿海貿易を許さず。法稅兩權を一時に全部回復するは至難なるを以て、漸次に之を回復せんことを期す』云々。

○其他の質問　右四個條の質問の外、幾多の質問續々各議員より提出せられ、政府概ね之に答辨を與へたり。今之を省略に付す。

第四章　豫算案

◉政府の立案

政府は第一回帝國議會に對して明治二十四年度歲入歲出總豫算・同

特別會計豫算・總豫算追加二件・及び豫算外國庫負擔の契約案を提出して其協賛を求めたり。

○二十四年度總豫算　明治二十四年度總豫算案に計上する歲入出額幷に前年度豫算との對照增減左の如し。

		二十四年度	二十三年度	比較
歲入	經常部	七九、四四三、八六四円	七八、一九八、九一〇円	(增)一、二四四、九五四円
	臨時部	一、二三三、一二八	六、八七一、九七八	(減)五、六三八、八五〇
	合計	八〇、六七六、九九三	八五、〇七〇、八八八	(減)四、三九三、八九五
歲出	經常部	七二、一七一、一八一	七〇、五一五、五六九	(增)一、六五五、六一二
	臨時部	八、四六七、五三二	一四、三八八、〇八一	(減)五、九二〇、五四九
	合計	八〇、六三八、七一四	八四、九〇三、六五〇	(減)四、二六四、九三六

(註)二十四年度總豫算歲入有餘金三萬八千二百七十八圓也

○二十四年度追加豫算　政府は明治二十四年度總豫算案と同時に

其追加豫算案を提出す。鐵道建設（横川輕井澤間直江津柏崎間）軍艦製造及び電信新設等の經費にして、其歳入出（臨時部）は共に二百四十三萬七千百二十一圓なり。鐵道建設及び軍艦製造は數年に亘るの繼續費にして、其總額に加ふるに電信新設費を以てすれば、合計七百八十九万餘圓に達す。大藏大臣の説明に曰く『此巨額の臨時費は、到底經常歳入を以て之を支辨するの道なしと雖も、意外にも二十一・二兩年度の財計に於て七百八十九万餘圓の剩餘金を生したるを以て、政府は之を使用して以て前記必要事業の經費に充てんと欲す』と。次て會期の終末に近づき、帝國議會議事堂の燒失するや、政府は其再築費を二十四年度總豫算に追加して之を議會に提出す。其歳入出（臨時部）は共に二十四万八千四百十八圓なり。

○歳入出總額　右總豫算及び二號の追加豫算を併算すれば、其歳

入は八千三百三十六万二千五百三十二圓（經常部七千九百四十四萬三千八百六十四圓、臨時部三百九十一萬八千六百六十七圓）其歳出は八千三百三十二万四千二百五十四圓（經常部七千二百十七萬三千七百十二圓、臨時部千百八十一圓）なり。

○別種豫算　特別會計豫算・豫算外國庫負擔の契約案等の内容は今之を省く。（以下倣之）

◉衆議院委員會の經過

○審査方針　衆議院の豫算委員會は總員六十三名に成り、其全會を六科に分ち、各省を便宜之に配置し、各員をして之を分擔審査せしむ。委員會は審査に着手するに先たち、總會又は協議會を開きて審査の方針を議す。蓋し政費を節減して民力を休養せんとするは當年の國論にして、委員會亦此國論に遵ひ、深く官制を侵して豫算案を審

査し、及ひ憲法第六十七條保障の各歳出に對しても忌憚なく削減を試むるの方針を立て、此方針に基き、各局の廢合・人員の配當・及び俸給諸給の削減に關する大體の標準を定め、各科は此標準に據りて豫算審査の事に從ふ。

（註）憲法第六十七條に於て大權に基ける既定の歳出・法律の結果に由る歳出・法律上政府の義務に屬する歳出を保障して議會の任意議決權外に置く。明治二十三年二月、內閣總理大臣は一訓令を各省大臣に與へ、右三種歳出に屬する費目を一々列擧し、豫め議會に備ふる所ありたり。

委員會は審査の準備に多數の日子を費

○審査未了の報告、再託

し、且つ未た何等の經驗を有せざるを以て、其審査遲々として甚た進まず。既にして法定審査期間十五日間遂に盡く。此に於て委員會は審査を中止し、委員長大江卓は十二月二十日の議場に審査未了の報告を爲したり。各員は此報告を得て大に委員會の怠慢を難じ、諸說紛

起して議場頗る喧囂に赴きたりと雖も、結局現在委員に託して再ひ之を審査せしむることゝ決し、限るに七日間を以てす。委員會は之より審査を繼續し、紛々たる內部の異論を排して急速に決議を了し、整理委員を擧げて之を整理せしめたり。

○審査結了、政府の意見、審査案、歳出削減額

功程此に至るに及んで政府委員大藏次官渡邊國武始めて口を開き、審査案の豫算削減は急劇に失し、行政機關の運轉を妨ぐるものなりと爲し、政府之を實施する能はざる旨を一言す。委員會は之に耳を傾けずして審査案を整理確定し、十二月二十七日年末休會中、審査書類を議長に提出し、新春一月八日の議場に委員長口頭を以て審査の經過及び結果を報告したり。其報告は審査案及び其說明書に添ゆるに各局廢合・人員配當・及び俸給並に旅費給額等の諸表を以てす。審査案は各省經費に多

大の削減を施すと共に、又豫算の編制を改め、其欵項を增減變更したること少からず。而して其査定金額を以て豫算原額に比較するに、總豫算經常歲入に於て十萬圓を減じ、其臨時部に於て十萬三百五十圓を減し、即ち合計二十万三百五十圓を減ず。歲出は經常部に於て七百二十八萬八千二百二圓を減し、臨時部に於て五十九萬二千五百三十一圓を減じ、即ち合計七百八十八萬七百三十四圓を減ず。外に追加豫算第一號に於て歲入出共に一百萬圓を減ず。故に査定案の經費節減額は實に八百八十八萬七百三十四圓の巨額に達す。

(註)豫算委員會は總豫算中歲入出經常部の預金利子百三十七万餘圓を特別會計に移し、特別會計豫算中の整理公債募集金一千五百萬圓を總豫算の歲入出臨時部に移し、同臨時部中、中央備荒儲蓄金十六萬餘圓を特別會計に移し、此加除を施して原案と査定案とを對照したり。但し此變更は後日悉く舊に復す。

◉衆議院豫算會議の準備及各種の動議

○會議順序協定の動議 豫算委員長が委員會の經過及び結果を報告し、衆議院將に本會議を開かんとするに際し、議員末松謙澄は豫算會議の順序に關して六個條の規則案を提出す。議會は全院委員會を開きて之を議す。規則案中、憲法第六十七條記載の歲出削減に關し、毎省歲出の逐項審査を終りたる時を以て政府の同意を求めんとするの件あり。全院委員會は本案を否定し、本會議亦之を否決したり。

○政府不同意の豫告 翌九日將に豫算本會議に入らんとするに臨み、大藏大臣松方正義は豫算に對する政府の意見を表白せり。曰く査定案の歲出削減は激甚にして行政機關の運轉を沮害するものなるを以て政府は不幸にして之に同意する能はずと。議員中不同意の條項如何を問へば、其條項は議會が正式に政府の同意を求め來るの際之を指摘すべく、今は唯〻德義上議會の反省を促したるに過ぎずと

答ふ。

○全院委員會の豫算議決　議會は是より豫算案の爲に全院委員會を開き、連日審議を凝し、二月三日に及んで其全部を議了したり。當時民黨の勢力頗る强盛にして、其所屬議員は委員會の多數を占め、固く査定案を守持して復た動かず。爲に該査定案以外に一二の修正案を見たりと雖も、此等修正案は政府案と共に倒れ、査定案全部悉く全院委員會の容認する所と爲る。此際壯士横行、民黨議員に暴行を加ふること頻々。政府乃ち保安條例を實施して壯士を皇居三里以外に驅逐したり。

○査定案廢棄の動議　豫算案が尙ほ全院委員會の審議に屬するの際、議員西毅一は査定案廢棄の緊急動議を提出す。曰く査定案の歳出削減は頗る急劇に失し、且つ法律に背反するを以て、本院は之を

受領すべきものにあらずと。議會は此動議を緊急動議として採用するの可否を表決し、認めて以て緊急動議と爲し、日程を變更して之を議す。民吏兩黨盛に議論を鬪はし、其鬪論は二日の長きに亘る。皆な豫算の大體議に關せざるはなし。結局百二十五に對する百四十一を以て本案を否決したり。

○豫算案再審の動議　既にして全院委員會終結を告ぐるや、議員大谷木備一郎亦緊急動議を提出す。曰く『豫算査定案其他豫算に關する各修正案を一括し豫算委員の再審査に付すべし』と。此動議亦百二十七に對する百三十四を以て否決せらる。

○憲法保障歳出に關する動議、政府の見解　是より豫算會議に入らんとするに臨み、手續に關する幾多の動議の提出を見る。就中最も注目すべきものは議員坪田繁提出の憲法第六十七條保障の歳出廢

除削減に關する動議是なり。左の如し。

憲法第六十七條記載の歳出に關する廢除又は削減の議決は政府の同意を求むる爲の議決、とす○同上歳出に關し政府の同意は本院に於て政府の同意を求むる爲の議決後直ちに之を求むるものとす

本案亦賛否多數の討論を經て、九十三に對する百三十八を以て之を否決せり。右動議の否決せらるゝや、大藏大臣松方正義は本件に關する政府の見解を表白せり。曰く『憲法第六十七條記載の歳出の廢除削減は其確定議前、一院毎に政府の同意を求めさるべからず』云々。次て豫算本會議に入るの後、總理大臣山縣有朋亦本條の解釋に關して政府の意見を表言し、衆議院若し確定議前に政府の同意を求むるの手續を取らざれば、政府は該費額に對して一切辨明を爲さざる旨を明言したり。

●衆議院の議決、政府の不同意

○豫算會議開始　衆議院は二月六日より豫算會議を開き、歳出經常部より議事を始む。討論極めて綿密にして、一省の所管を議するの爲に、或は三四日を費したるものあり。而して憲法第六十七條保障の歳出廢除削減に關し、政府屢〻確定議前に政府の同意を求めんことを促がしたりと雖も、衆議院は之を省みずして議事を進行し、二月十六日を以て歳出經常部の議事を終りたり。

○政府の言明（總理大藏兩大臣の演說）　衆議院が歳出經常部の議事を終りたるの日、總理大臣及び大藏大臣又々出席して各〻一場の演說を試む。總理大臣の演說は維新已來の國是より說き起し、此國是を遂行し、內は民福を進め、外は國權を伸べんと欲せば、必要の經費を支出す

ること亦避くべからざる所なりと云ひ、徒らに經費節減を計り、一定の國是に乖りて遂に國家の長計を誤るべき査定案の如きは、政府の斷じて同意する能はざる所なりと結論す。大藏大臣亦査定案が法律及び官制を犯して恣に査定を遂げたるを非難し、此年度切迫の際、敢て急激なる削減を加へて之れが實行を迫るか如きは、無責任の甚しきものなりと云ひ、最後に『議會若し不都合なる決議を爲すときは政府は憲法の命ずる所に隨て不得止決意するの外なし』(即ち散解の意)と明言したり。

○豫算全部議了　總理大藏兩大臣の演說は何等の効あるなく、議會は着々議事を進め、歲出臨時部・追加豫算・特別會計豫算・豫算外國庫負擔の契約、及び歲入豫算を議し、破竹の勢を以て査定案を可決したり。但し間〻議員の特別修正案を可決したるものなきにあらずと

雖も、其款項と金額と共に極めて少し。

○憲法保障歲出問題の再燃　衆議院は既に豫算案全部を議了したり。此に至りて又々憲法第六十七條保障の歲出廢除削減に關して一問題を生す。即ち議員天野若圓は二月二十二日の議場に緊急動議を提出して曰く、

憲法第六十七條に規定しある三個の歲出に付本院に於て廢除削減せんと意思を定めしものは本院確定議已前に於て政府の同意を求めんとす

此問題は曩さに既に再次の類似案(末松案及び坪田案)に於て十分に論議を盡したる所なりと雖も、今又此動議の起るに會し、三たび賛否の議論を闘はしたり。而して其結果、前二回の決議を黜へし、百八に對する百三十七を以て此動議を可決したり。

○同意要求、政府の拒絶　此に於て衆議院は各豫算議定書全部を

政府に送致し、憲法保障の歳出廢除削減の議決に同意を要求す。政府は即時覆牒を發して同意を拒絶せり。曰く『衆議院の豫算修正案は官制を變更せんとする點に於て豫算議定權の區域を超越したり』曰く『法律の成文を以て規定したる事件を豫算によりて變更せんとするは亦其分界を誤れり』曰く『此の如き豫算の變更は行政の責に當るべき者の實施し能はざる所なり』と。政府は以上の理由を以て衆議院の再考を望みたり。

○憲法保障歳出問題疑議　右政府の覆牒は人をして大に疑議を懷かしめ。兩院議員は各〻主意書を發して政府に質問する所ありたり。衆議院に於ける島田三郎等の質問は、其主意を分て左の三點とす。

第一。憲法上の大權に基ける既定の歳出も、政府の同意を得れは之を廢除削減することを得へし。然るに之を以て豫算議定權の區域を超越せりと云はゝ、同意を求むるの豫決なも之を爲すを得すとの趣意なる乎○第二。衆議院は法律の成文を以て規定したる事件

を豫算に依りて變更せんと試みたるか故に、乃ち政府の同意を求めたるなり。然るに之を以て豫算議定の分界を誤れりと爲すの趣意如何○第三。政府か査定案に同意せさるは、其費目削減の精神政府の方針と相反するか爲乎、將た會計期日切迫の爲乎、假すに時日を以てすれは幾何の經費を節減せんとする乎。

政府は豫算案通過後に及んで大要左の意味の答辯を爲したり。

第一。憲法第六十七條は既定の行政組織を基礎とする上に於て費額の廢除削減に對して同意を求むへきを云ふものにして行政組織其物に對して同意を求めて之を改革することを得へしと云ふにあらす豫算議定の際恣に官制を改革するを許さは憲法第十條は遂に其効力を失ふに至らん○第二。豫算は法律の基礎の上に編制せらるべきものなり法律の改廢を豫期して豫算を編制するか如きは本末前後の順序を誤るものにして若し其法案にして成立せずんは豫算の支出は法律に據らざる支出と爲るべし

質問第三點たる經費節減に關しては、事實上既に解決を經たるものとして答辯を爲さゞりき。

●豫算成立

○衆議院の再審　政府と衆議院との意見は全く衝突し、明治二十四年度豫算は將に不成立に終らんとす。此時に際して議員三崎龜之助は一動議を提出し、再び政府と交渉して豫算を成立せしめんが爲に九名の特別委員を擧ぐるの議を唱ふ。民黨は熱力之を阻みたりと雖も、遂に百十七に對する百五十を以て此動議を可決し、直ちに九名の特別委員を擧げたり。當日は會期滿了の日なりしと雖も、幸に九日間會期を延長せらる。

○再審の結果、歳出削減額　豫算審査特別委員は就任以來日夜政府と交渉し、豫算總計に於て七百五十萬圓を削減せんことを期し、政府は六百三十一萬餘圓の削減を諾せんとし、僅に一百二十萬圓弱の差額に關して兩者の主張歸一せす、談判將に破裂せんとしたりと雖も、政府は更に鐵道建設費中二十萬圓を讓歩せんことを豫約し、協

議茲に圓熟し、特別委員長安部井磐根之を三月二日の議場に報告したり。其修正額は政府原案の歳出額を削減すること六百三十一萬二千一圓なり。

○衆議院の議了　大藏大臣は右特別委員の修正に同意し、衆議院に臨みて速かに之を可決せんことを望みたり。然るに民黨議員は尚ほ之に不滿を抱き、又々賛否數番の討論あり。結局百二十五に對する百五十七を以て特別委員の報告を是認し、次て憲法第六十七條保障の歳出に關し政府の同意を求めたるに、政府直ちに之に同意し、此に至りて衆議院は豫算案全部の會議を終りたり。

○貴族院の議了　貴族院は先づ豫算常任委員を擧げ、審査部門を六科に分ちて總員を之に配置し、豫算議定細則を設けて審議の順序を定む。其細則中、憲法第六十七條に規定せる歳出の廢除又は削減